

# 日本医師アマチュア無線連盟会報

## No.69

## 第33回 MARS 京都総会を顧みて

MARS 会長 JA7AOM 及川 忠人(岩手県)

平成21年4月18日(土)～19日(日)に好天に恵まれて、第33回 MARS 総会が京都ガーデンパレスにて開催されました。久しぶりで楽しい一時を過ごすことが出来て、心から感謝申し上げます。今回の京都総会の設営にあたりましては地元の JA3ASU 狭山信矩先生の絶大なご尽力によりまして、素晴らしい会場を選んでいただき、また総会特別講演も「手作り発見」という真空管ラジオの制作と云う懐かしい有意義な小宮先生のご講演に感激し、また故大門先生の手作りの真空管式受信機等を見ながら、中学時代に手作りして高1中2スーパー受信機を自作した頃を懐かしく想い浮かべました。また D-star 通信についての狭山先生のご講演は、鉱石ラジオへの興味からスタートしたラジオ少年の時代を経てアマチュア無線を趣味としてこれまでの歩みを振り返り、その後の進歩に驚かされる素晴らしい内容でありました。重ねてこの総会をこれまでご準備頂きました、狭山先生を始め多くの京都並びに近隣3エリアの会員諸先生方に心から感謝申し上げます。

京都ガーデンパレスに少し早く到着したので、



久しぶりで京都御所を散策することが出来ました。岩手医大6年生の夏にキリスト者医科連盟の日韓交流セミナーが開催され医学生として参加したとき、京都の先生方が御所を御案内下さって、感激したことがあり、昭和45年の夏に丁度大文字焼きを見て郷原先生のお宅を訪問した頃が懐かしく思い出されました。御所を久しぶりで歩いたわけですが、こんなに広いところだったかと、日本の歴史を刻んだ場所であることや、明治維新の生々しい歴史が甦ってくる感じが致しました。また幕末戊辰戦争や様々な歴史的出来事がこの御所を中心に展開されたことに想いを馳せました。特に蛤御門には当

時の会津藩と長州藩の衝突が実際にあった場所であるとの丁寧な標識があり、歴史の流れの重さを実感致しました。



総会後の懇親会では久しぶりの Eye Ball Meeting で楽しい一時を過ごすことが出来ました。二次会で来年の総会の開催場所のことが話題となり、再来年が東京にて医学会総会が開催されますので東京にて医学会総会に連動して総会を開催する予定ですが、来年は再度沖縄にて開催するとのご意見が多く東條先生、渡辺先生そして仲井間先生が中心となり来年は沖縄総会として準備することになりました。ちなみに時期は大極的に検討し、2010年4月17日(土)～18日(日)に開催することに致しました。

翌日4月19日のエクスカーションでは比叡山の東側にある律院の不動明王寺に共に参拝して、それぞれの願い木片に書き込み、約1時間の独特の宗教行事に参加する貴重な時を与えられました。そのあとに、精進料理を昼食として戴くことが出来ました。この律院の参拝する前の時間には、その庭園を見学する、ゆったりとした静かな時間を持つことが出来ました。これは日頃多忙の中にある参加諸先生にとっても、とても素晴らしことと想いました。また日本庭園

の美しさ、その構成に驚き、その中を流れる水の透き通った美しさとその自然観にとっても感動を覚えました。

今回のエクスカーションは静かな時間をゆったりとっていただき、とても良かったと思っております。このような企画を持たれ準備を進められた狭山先生を初め多くの3エリアの会員諸先生方に心からの感謝を申し上げます。

最近MDネットはコンディションが少しずつ改善傾向にありますので、元気な諸先生方の声が59で聞くことが楽しみに為って参りました。それぞれの地域でご活躍の諸先生方が一時、自分の職場から解放されてアマチュア無線の交信に集中することを通して、互いの交流の原点があるように思われます。そのような活動を通してアマチュア無線を楽しみながら、それぞれの地域でいざと言う時に役に立つことが出来ることは、この趣味以外にはないことであると思えますし、とても有り難いことであると思えます。

様々な課題を持つ MARS ですが少しでもこの活動を活発化させて参りたいと願うものでございます。今後の MARS 会員の一層のご活躍とご健勝を祈り、京都総会のつたない感想に替える次第です。



# MARS 会員都道府県別分類

( J A 1 ) 20局				( J A 5 ) 3局			
東京都	JA1FF	JA1BOW	JF1SXY	香川県	なし		
	JK1AIN	JL1BGP	JP1HIS	徳島県	JA5GPJ	JA5POS	
	<u>JH7WKU</u>	<u>JR9FQO</u>		愛媛県	なし		
神奈川県	JH1IAA	JE1TNL		高知県	JH5KAJ		
埼玉県	JR1CDJ	JR1JIC	JE1MMK	( J A 6 ) 5局			
	JL1LRJ			福岡県	JA6BMB	JA6RQK	JH6IBM
茨城県	J11VAH				JG6DAO		
群馬県	JA1KXT	JR1SJD		大分県	なし		
千葉県	JM1BIX			熊本県	なし		
栃木県	JF1EJS	JO1RTV		宮崎県	なし		
山梨県	なし			鹿児島県	なし		
( J A 2 ) 8局				佐賀県	JR6EZJ		
愛知県	JA2DQH	JH2QBQ	JR2AXV	長崎県	なし		
	JG2XEJ			沖縄県	なし		
静岡県	JA2BIV	JE2ANG	JE2KKI	( J A 7 ) 22局			
	JO2DBR			青森県	JA7VAB	JR7BWP	
岐阜県	なし			秋田県	JH7MSL	JE7MMC	
三重県	なし			岩手県	JA7AOM	JA7PPA	JH7IIR
( J A 3 ) 32局					JH7OLB	JH7XGQ	JR7QWT
京都府	JA3ASU	JH3SQM	JH3SQN		JE7EDF	JG7CRJ	
	JH3SRC	JR3HFS	JR3HGY	山形県	なし		
	JR3JJQ	JF3BIE	JF3ITN	宮城県	JA7EVM	JH7CAI	JH7EQW
	JF3NXJ				JH7QFA	JR7CAD	JM7USW
大阪府	JA3BQT	JA3LDH	JA3WKF	福島県	JA7FHH	JA7RTM	JE7GFM
	JH3AEF	JH3MWR	JR3KBI		JJ7BRL		
	JR3LJI	JE3RZA	JF3EKP	( J A 8 ) 4局			
	JF3MTM	JJ3MIG	JL3SIK		JA8FOH	JA8JDQ	JA8RSJ
滋賀県	JF3PMG	大塚博紀			J18MLV		
兵庫県	JA3XED	JH3GOB		( J A 9 ) 4局			
奈良県	なし			富山県	なし		
和歌山県	JH3TCC	JF3JON	J13CIN	石川県	<u>JK1QLR</u>		
	JJ3KUL	JM3BCQ	JN3ASW	福井県	JA9SN	JH9HDD	JE9RWF
( J A 4 ) 4局				( J A 0 ) 4局			
岡山県	JE4EWM(exJA5LDZ)	JG4JFW		新潟県	JA0CEP	JA0HGN	JH0LME
広島県	JH4DPL	JH4UYB			JE0BWH		
鳥取県	なし			長野県	なし		
島根県	なし						
山口県	なし						

\_\_\_\_\_は他エリアからの移動局  
計106局 (2009年9月現在)

# 第33回MARS 京都総会

2009年4月18日 京都ガーデンパレスにて

司会進行 JH7QFA 渡辺孝志(宮城県)

会長挨拶 JA7AOM 及川忠人(岩手県)

第33回 MARS 総会にご出席いただきましてありがとうございます。京都での開催に際しまして狭山先生に大変お世話になり、御所の前のこんなに素晴らしい場所で開催できることを心から感謝申し上げます。京都は平野先生の時代から MARS の出発点になった場所でございます。そこで総会が開催できることを喜んでおります。また、特別講演につきましては小宮先生と狭山先生から「手作り発見」ということで真空管のラジオ少年の時代のことに思いを馳せながら楽しい総会が持てれば良いなと思えます。

今後とも MARS の運営につきましてご支援ご協力をお願い致します。今日は本当にありがとうございました。

議長選出

JH2QBQ 丸山 暢氏(三重県)を選出

報告事項

庶務報告 JL1BGP 井上文正(東京都)

会員数 108名

入会3名 JE1TNL、JF3BIE、JF3MTM

事業報告

MD ネット JH7QFA 渡辺孝志

3. 5MHz は JA1KXT さんが欠席されておられますが、毎週結構開けており年間を通じて

ネットを持ってない日はありませんでした。06:30 から始まる7MHz の方は昨年11月あたりから連続して9週間どころもつながらないという状態になりました。ただ、時間帯を選べばお昼過ぎくらいには通信ができるようになったので7MHz 全体が通信不能というわけではなく、何とか7エリアと3エリアとは相性がよく JR3HGY、JH3GOB、JI3CIN、JF3JON 局とはつながることが多かったです。06:30から7.060MHz でやっております。今後も JH3AEF さんとタグを組んでやっていく予定でございます。少しずつ7MHz バンドが開けてきておりますので、各局さんのお声掛けをお待ちしております。

MARS NEWS

JF3JON 田中憲児(和歌山県)

昨年9月に67号を、今総会の前に68号を発行いたしました。62号以後のバックナンバーをPDFファイルでMARSホームページ上にアップしております。ホームページからもご投稿可能ですので、皆様のご投稿をお待ちしております。

MARS AWARD JH7QFA 渡辺孝志

1)MARS 医学 AWD 発行状況

No.166 JH6WSN 大分市・塩月邦美 OM class B

No.167 JE9RWF 越前市・岩堀嘉和 OM class A

JE9RWF 局は MARS 会員につき年間賞の対象のため、今回は無抽選で JH6WSN 局に

年間賞としてスタンダードのハンデイトランシー  
バーVX-3を進呈いたします。

## 2)MARS 医学 AWD II 発行状況

昨年度は classA、classB ともに発行がござい  
ませんでした。

## 3)会計

収入の部:

前年度からの繰越	399 円
MARS AWD 申請料	1,600 円
合計(A)	1,999 円

支出の部:

AWD 送料(JA) 270×2	540 円
------------------	-------

その他送料 1,160 円

合計(B) 1,700 円

合計(A-B) = 298 円 → 次年度に繰越

なお、年間賞(本年度は STANDARD VX-3)  
は本部会計に依存しました。

## MARSホームページ

JH3TCC 家田勝幸(和歌山県)

1年間に32,005人の訪問がありました。トッ  
プページを含めて最初に作ったものですので、  
そろそろ全面更新を考慮しておりますが、少し  
ずつでも更新していく予定です。

平成20年度 会計報告 JL1BGP 井上文正

収入の部	予 算	決 算
繰越金	1,434,730	1,434,730
会費収入	800,000	599,000
その他		
総会剰余金		38,000
JR1VUF奥様からの御寄付		100,000
利子		22,116
合計(A)	2,234,730	2,193,846

支出の部	予 算	決 算
MARSニュース	600,000	536,000
MARSアワード	50,000	27,000
ホームページ管理費	120,000	110,880
送料通信費	50,000	
ニュース送料		51,180
振込手数料		2,520
書留(現金送料)		1,860
東條先生立て替え		45,585
総会助成金	100,000	100,000
事務用品費	5,000	

封筒・切手		5,782
事務員謝礼金	60,000	60,000
慶弔費	50,000	0
雑費	5,000	0
合計(B)	1,040,000	949,927

(A)-(B)=次年度繰越額 1,194,730 1,243,919

### 会計監査報告

帳簿、通帳、領収書等を厳正に確認の結果、会計は適正に運用されていることを証します

平成21年4月18日 監事 JA1FF 国府田守雄

平成21年4月18日 監事 JH3GOB 稲見 修

MARSニュース68号に、会費納入用の郵便振替用紙を同封させていただきました。

### 議事

平成21年度事業計画案 承認

- |                     |                               |
|---------------------|-------------------------------|
| 1)MDネットの充実を図る       | 5)災害時の MARS の役割と具体的対応について検討する |
| 2)MARS NEWS の充実を図る  | 6)MARS 新入会員を増加させる             |
| 3)MARS アワードの継続      |                               |
| 4)MARS ホームページの充実を図る |                               |

平成21年度予算案 承認

収入の部		支出の部	
繰越金	1,243,919	MARSニュース	500,000
会費収入	800,000	MARSアワード	27,000
合計(A)	2,043,919	ホームページ管理費	120,000
		送料・通信費	50,000
		総会助成金	100,000
		事務用品費	5,000
		事務員謝礼金	60,000
		慶弔費	50,000
		雑費	5,000
		合計(B)	867,000

(A) - (B) = 次年度への繰越金 1,176,919



### 平成22年度開催地について

次回の医学会総会が平成23年度東京で行われますので、再来年は東京で開催予定でござ

います。平成22年度につきましては後ほどの懇親会や明日のエクスカッションで協議してまいりますので、まだ確定しておりません。



平成21年4月18日 第33回日本医師アマチュア無線連盟(MARS)京都総会 於京都ガーデンパレス

第34回 MARSウチナー総会  
平成22年4月17日(土)  
4月18日(日)  
沖縄県那覇市にて開催予定

# 特別講演「手作り発見」

## 1. 真空管ラジオの製作について

JR3JJQ 小宮精一(京都府)

### はじめに

昨年末、大門公子先生から「ARY さんが高校生時代に作ったラジオが出てきたけど知らない？」との電話があり、早速いただきに参りました。

実物を見せていただくと、木製のケースまで付いた全くの手作り受信機で、アルミ板のフロントパネルにはマジックペンで誇らしげに JA3ARY のコールサインが記されていました(写真1)。



写真1: 外観。パネルには誇らしげに JA3ARY の文字が。

1アマで、メーカー製高級トランシーバーにリニアアンプ、クランクアップタワーにトライバンドという豪華無線設備や、パソコン・デジタル一眼と最新の IT 技術にも堪能だった大門先生が、高校生時代の真空管式受信機を大切に保存していたということは、やはりこの手作り受信機を先生は、その輝かしいアマチュア無線ライフ

の「原点」と思われていたのではないかと、手作り大好きな元「ラジオ少年」の私としてはひどく感激してしまいました。

ARY さんは 1933 年のお生まれで、高校時代と言うと私が生まれる前後くらいの製作という事になります。残念ながらこの受信機は別体の電源部が無く、直ぐに働かせる事が出来なかったため、そのうち電源を作って先生の聴いた音を復活させようと思っていました。

そんな時に MARS 京都総会の話が持ち上がったので、皆さんに馴染み深い ARY さんの受信機を復活させてご披露する丁度良い機会ではと思い立ちました。同時に真空管ラジオの製作例もいくつか紹介して会員の皆さんにも、もう一度アマチュア無線の原点である「手作り」の楽しみ知って、あるいは思い出してもらおうと計画いたしました。

### 受信機の説明

木製ケースから取り出して受信機の概要を見ると、部品の構成・配置から、この受信機は当時のアマチュアの標準である3バンドの高1中2スーパー受信機ということが分かります(写真2)。使用真空管はソケット数から8本でした。残念ながら真空管はソケットから外されて無くなっていたので正確なことはわかりませんが、回路構成は当時の資料と配線から、高周波増幅(6BA6 或いは 6BD6)、周波数変換(6BE6)、局部発振(6BE6)、中間周波増幅(6BA6 或いは



は 6BD6x2)、検波(6AV6)、BFO 発振(1/2 12AU7 推定)、低周波増幅(6ZP1)という具合です。低周波増幅の 6ZP1 は ST 管ですが、それ以外はミニチュア管(MT 管)が使用されています。



写真2: ケース内部。中央の箱内に3連 VC。

主要部品の3バンド用コイルパックはおそらくトリオ KR3BC(写真3)、IFT(中間周波トランス)はトリオ製ですが型番は不明でした(写真4)。トリオは現在の KENWOOD の前身会社のブランド名で IFT のアルミケースには春日無線株式会社(KASUGA CO.LTD)と記されています。メインの3連バリコン(写真6)はメーカー不明、スプレッドバリコンは単連のタイトバリコンが使われ、局部発振周波数のみ可変しています(写真7)。3連バリコンは手製のブリキ板のケースで覆われ、両バリコンはアルミパネルの微動(バーニャ)ダイヤルに繋がっています。BFO コイルはシールドの無いものを IFT トランスのケースを改造した手製のシールドケースに収め、周波数の微調整用には並三ラジオ等に用いられる「豆コン」と呼ばれるバリコンの羽根を幾つか抜いて更に容量を小さくして使っていました(写真8)。

低周波増幅の 6ZP1 に出力トランスは無く、

当時の OPT を背負ったダイナミックスピーカーが外付けされていたようです(写真8の手前)。電源とスピーカーへの接続はUZソケットと呼ばれる ST 管用のウエファースケットがシャーシ背面についています(写真9)。

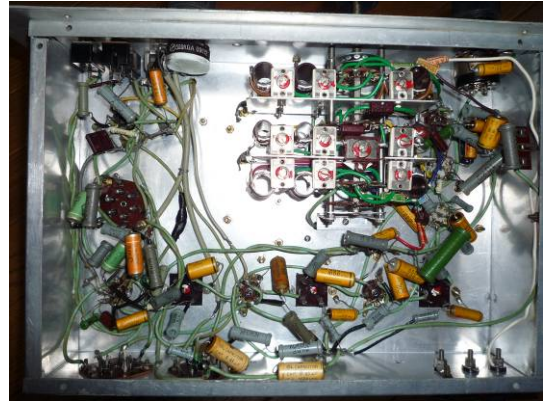


写真3: シャーシ内部。右ウエがコイルパック。



写真4: 中間周波トランス(IFT)。



写真5: IFT には TRIO(春日無線)の文字が。



写真6: ケースを外した主選局 VC。取り付けゴムは溶けている。



写真8: BFO コイルとピッチ調整 VC。手前には 6ZP1。



写真7: スプレッド VC。タイト製単連。

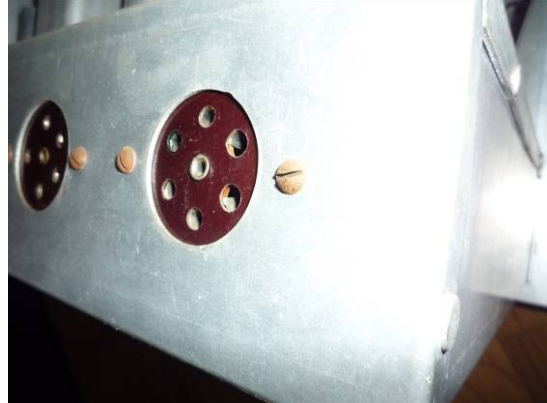


写真9: SP 接続用 UZ ソケット。

## 修復作業

いよいよ復活作業ですが、まず掃除です。簡単にはずせる部品ははずして磨きました。部品にはホコリやサビが付着し、バリコン取り付けゴム足は溶けて固まっていた(写真6)。電源が無いと何も始まらないので、次は外付け電源の製作です。整流にはオリジナルでは真空管が使われていたと思われるので、5Y3-GT などの整流管を検討しましたが、手持ちの電源トランスで高圧巻線容量、ヒーター電圧・容量、等にちょうど良い物が無く、シリコンダイオードを使用することにしました。シリコンダイオードを使用したので小さめのケースに収める

事が出来ましたが、B 電圧が少々高めになってしまったのが心配です(写真 10)。

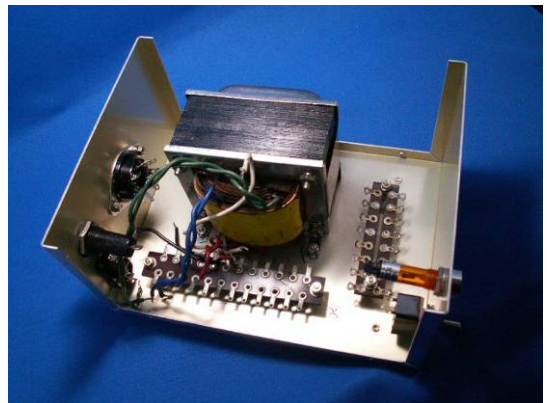


写真10: 製作途中の電源部。

次に困ったのは低周波増幅管 6ZP1 の出力



トランス(OPT)が外付け式で存在しないことです。前述のようにOPTを背負ったSPは現在ありませんから内蔵することになりました。幸いシャーシ上にはそのスペースがありましたのでここに追加して取り付けることになりました。しかしB電圧が6ZP1の耐圧をオーバーしてしまうのと、手持ちに6ZP1用の1次側インピーダンス12k $\Omega$ のOPTが無かったので6ZP1をGT管の6V6に変更することになりました。これですと手持ちの1次側インピーダンス7k $\Omega$ のOPTが使えますし耐圧も十分です。当然ソケットはGT管用の8本足オクタールベースのものに変更、カソード抵抗も変更しました(写真11)。



写真11: 改造した低周波増幅部。出力管 6V6 と OPT。

## 通 電

ここが一番こわいところです。参考書には整流管を使っている場合、まずこれだけを抜いて云々と書いてありますが、整流管がありません

ので、全真空管を抜いて通電しました。電源のヒューズは飛びません。ほっとしているとなにやら焦げ臭いニオイ、良く見るとどこから薄い煙が立ち昇っています。注意深く見ると、混合管6BE6のスクリーニンググリッド抵抗の色が変わってきています。真空管を差していないのですから、本来電流はどこにも流れないはずですが、これは抵抗の先にあるバイパスコンデンサーが経年変化で絶縁不良になってショートしているためでした。慌てて電源を切り、焦げた抵抗とショートしたコンデンサーを交換しました。

これでOKかと思いきや次の中間周波増幅管のスクリーニンググリッド抵抗にも同じ事態が…。ここはパスキンの交換で解決しました。

これで一応臭いも煙も出なくなり、テスターで各真空管のプレート、スクリーニンググリッド、カソード電圧を測定し、ほぼ正常であることを確認、アンテナ端子にビニール線をつなぎ、バンドスイッチをA(中波)にしてバーニアダイヤルを回すと、地元のNHKが受信出来ました。しかし感度は悪く、バンドスイッチをB、Cと短波に切替えても何も受信出来ませんでした。Sメータも振り切れたまま、BFOも発振していませんでした。

大変中途半端ですが、「1局でも受信が出来た」という事実をもって時間切れとなり、一旦修復作業を終了することとしました。

## 考 察

本来このあとに、調整作業が入らなければいけないのですが、ここまでの作業をして、かなり各 부품の劣化が進んでいる印象を持ちました。配線のビニール線もカチカチ、ぼろぼろですし、コンデンサー類の劣化(絶縁不良、容量抜け)は他にもあるようです。今回はハンダ付け配線

のしてある部品ははずしませんでしたが一度すべての配線ははずし、1個1個の部品をチェックし直して、再組み立て(オーバーホール)をしないと完全復元は難しいようです。

真空管ラジオの製作には、(1)キットの製作、(2)一から部品を集める完全自作、(3)古いものを直す、などがありますが、この順に難易度が高くなり、今回は一番難しい所に首を突っ込んでしまったようです。

キットでは学研から「おとなの科学」シリーズの「真空管ラジオ」キット(写真 12)が出ています。



写真12: 学研真空管ラジオキット。

今回は JF3ITN 山田 OM にこのキットを組み立ててもらいました(写真 13)。印象はプラモデル的で物足りなかったようで、次は一から部品を集めて同じ3球ラジオを作りたいとのことでした。本キットは意外と感度も良いのですが、2枚の電極板の間隔をネジ式の選局つまみを回して変え、容量を変化させる方式のバリコン

は、選局がクリチカルなのと、真空管に電池管を使っているため、006P 電池5個と単2電池1個が必要な電源は実用性に欠けます(このような電池は百均ショップで安く購入できますが)。



写真13: 製作した3球ラジオ。



写真14: 組み立てたラジオ少年5球スーパーキット

もう一つ、JA8ATG 原恒夫 OM の主宰する NPO 法人ラジオ少年の「5球スーパー」キットは JA3QLQ 羽柴 OM に組み立ててもらいました(写真 14)。こちらは専用開発の中間周波トラ



ンスなどすべて新品の部品で構成され、価格も他社の同様のキットと比べても驚くほど安く絶対のお勧め品です。使用されている抵抗やコンデンサーなどの部品をみると(写真 15)ずいぶん小型になり、ARY さんの受信機内(写真2)と比べると時代の変化を感じます。

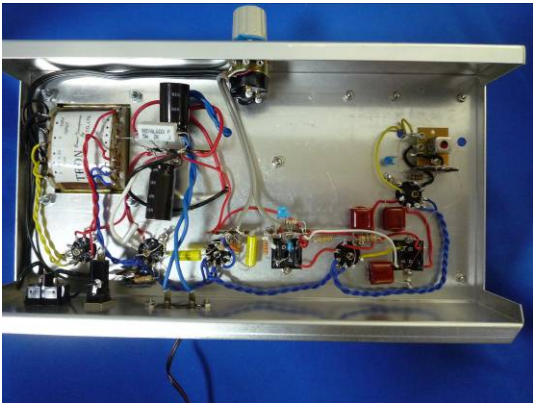


写真15:5球スーパー内部。部品に時代の差が。

ただし穴あけ済みのシャーシに部品と、「推奨」回路図があるだけですから、程々の知識と経験が無いと組み立てる事ができません。しかし「ラジオ少年」のホームページには組み立て記が出ていますし、最近の「参考書」(写真 16)にも実体図付きの組立記事がありますから難しくはありません。羽柴 OM(小生と同じ ARY 門下生)はそんなものも見ず、一部改良を加えて、さっさと組み立てたようですが、実用になる感度、音量、音質が得られています。ただ剥き出しのシャーシのままでは実用性に欠けるので、昔のメーカー製ラジオ(写真 17)のような木製のケースに収め、選局ダイヤルに一工夫してみようと、ホームセンターや百均ショップをうろうろ物色中です。部品を一から集める自作が一番楽しく作り甲斐もあります。これも最近はたくさんの出版物やホームページがあり、ブームになっているようです。ただそれによって秋葉原やネット



写真16:真空管ラジオの製作本。



写真17:昔のメーカー製真空管ラジオ。

オークションでも法外な値段で昔の部品が売買されているのには呆れます。5球スーパーの記事と言うとなぜか ST 管を使ったものが主流で、皆がそれを真似ようとするのが間違いだと思います。オーディオでも真空管アンプがブームで、真空管1本にもビックリするような値段がついています。しかし受信用のミニチュア(MT)管は余り高くありません。私がお勧めするのはGT管の使用です(写真 18)。日本では ST 管から直接 MT 管に移行してしまったので GT 管はメーカー製ラジオにも使用例が少なく、馴染みが薄いのですが、MT 管より堂々とした外観でソケットも大きいので配線が楽です。ソケットは8本足のみで、ST 管のようにいろいろなタイプのソケット、グリッドキャップ、ほとんど手に入らず馬鹿げた

値段のついたシールドケースなどに無駄な費用がかかりません。またこのような記事ではマジックアイという同調表示管を使いたがるのですが、これも入手困難部品の一つで秋葉原では数千円で売られています。われわれハムは身につけた知識と技術で、Sメータを付けたら新品部品で数百円で済むと分かる訳で、つまらないお金をかけない製作を楽しみたいものです。



写真18:各種真空管。左から MT、メタル、GT、ST 管。下段はそのソケット。

最後が古いラジオのレストアですが、我が家にも知り合いのリサイクルショップから入手した真空管ラジオが7台も手つかずで積まれています。今回の経験をもとに外観は復元しても、抵抗やコンデンサーは新しい部品に交換して配線し直そうと思っています。特にプラスチックケースのトランスレス方式のものは電源関係の電解コンデンサーの不良が原因で、発火、爆発、感電など危険な事態を起こす危険があり注意が必要です。

ところで、「真空管ラジオなんて聞こえるのは音の悪いくだららないお喋りの中波放送だろ？そんなの聞くラジオなんて作ってもしょうがないのでは？」と思われる方々がいらっしゃるかもしれませんが、そうでもありません。専門の耳鼻咽

喉科医として言わせてもらえば、加齢で高域の落ちた聴力の耳には中波放送の帯域で十分、画像の無い音声のみの放送は想像力をかきたて、騒がしく中身の無いテレビのバラエティ番組を漫然と見ているより数十倍も脳の活性化(老化予防)には有効です。

もちろん腕が上れば短波を聴くようなものも作れるわけで、HF のアンテナをつないで海外の短波放送の受信も OK です。

## 終わりに

総会でお話したことに少々追加をしてまとめさせていただきました。技術力の無さにより、ARYさんのRXは誠に残念ながら、取りあえず音が出たという所で時間切れになってしまいました。また製作予定であった真空管ラジオのいくつかも手付かずで終わってしまいました。大切な遺品をお譲りいただいた大門公子先生、講演をお許しいただいたJA7AOM及川会長、JA3ASU 狭山 OM には大変申し訳なく思っております。

また3球ラジオキット、5球スーパーラジオキットを製作し講演にご協力をしていただいた、大門 OM が顧問をしておられたJA3ZGC 京都府立医大ARC時代の仲間、JF3ITN 山田 OM、JA3QLQ 羽柴 OM に厚く御礼申し上げます。

## 参 考

### \*書籍

(1)おとなの工作読本 No.1 ラジオ少年の時代 誠文堂新光社 2002

(2)おとなの工作読本 No.11

こっそり再入門&120%満喫 ゲルマ&真空管ラジオ

誠文堂新光社 2006



(3)定年前から始める男の自由時間

真空管ラジオ・アンプ作りに挑戦!

技術評論社 2004

(4)はじめての手作り工房 こだわりの真空管ラジオ作り

技術評論社 2006

(5)実用真空管もの知り百科

電波新聞社 2005

(6)まるごと真空管もの知り百科

電波新聞社 2005

(7)ブルーボックス B-1573

手作りラジオ工作入門

講談社 2007

(8)電子工作バイブル—真空管ラジオ&実用キット製作のノウハウ—

マガジンランド 2002

(9)真空管式スーパーラジオ徹底ガイド  
誠文堂新光社 2008

\*ホームページ(たくさんあるので3つだけ)

(1)NPO 法人ラジオ少年

<http://www.radioboy.org/>

(2)ラジオ工房(内田悟)

<http://www31.ocn.ne.jp/~radiokobo/>

(3)(新)真空管ラジオ修復記(菊地博和)

<http://www.k2.dion.ne.jp/~jm7ock/>

## 2. D-Star (デジタル通信)

### JA3ASU/AB7OB 狭山 信矩 (京都府)

D-starという名の下にデジタル通信がアマチュア無線界に始まり数年が経つ。

製品はICOMからのみ発売されており、当初、心細い感があったが、すっかり市民権を得たようである。爆発的に流行しないのには数々の原因があるが、その主たるものは取り扱いのむつかしさと思われる。ある種の有機体の取り扱いには難解なものが多いと言うことを皆さんはご存じと思うが、このような工業製品には基礎をしっかりと身につけておけば必ず誠意が通ずるものである。そこで、デジタル通信の原理と基礎をお知らせしたいと思う。7と 3.5 メガで行われているMD NETがアマチュア無線として最

高であるが、その補助回線や連絡用として設定しておかれるのも非常の際を考えると有用と思う。

#### アマチュア無線におけるデジタル通信

電波形式はFMであるが、警察通信のように秘話性はない。通常のFM受信機で聞くとザーという音になるが、その中に音声、文字、通信制御信号などが含まれる。これを操るのが面白いのである。特に 1200 メガではトランシーバを無線LANのように使い、インターネットもできる。

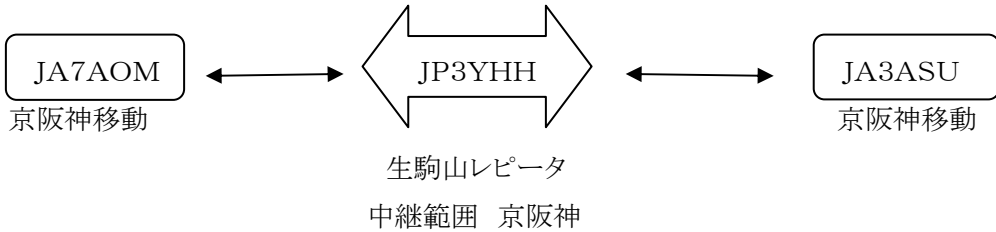
通信経路(レピータ)

次の方法で通信ができる。

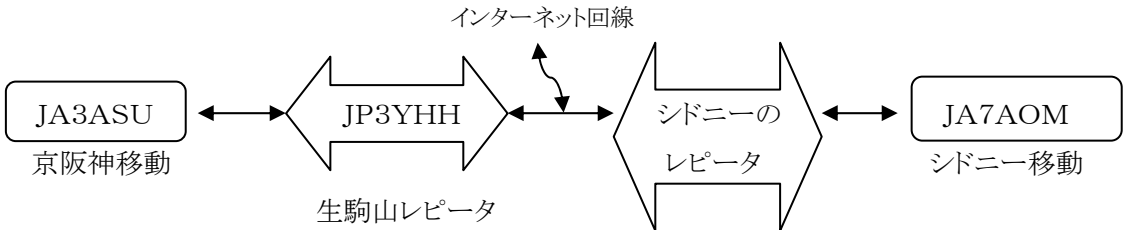
1. トランシーバで従来の通信。



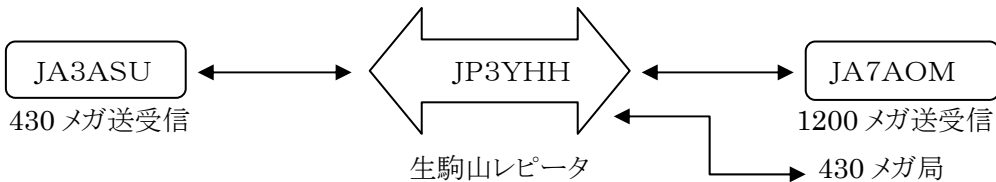
2. 最寄りのレピータを介してそのエリア内で通信。



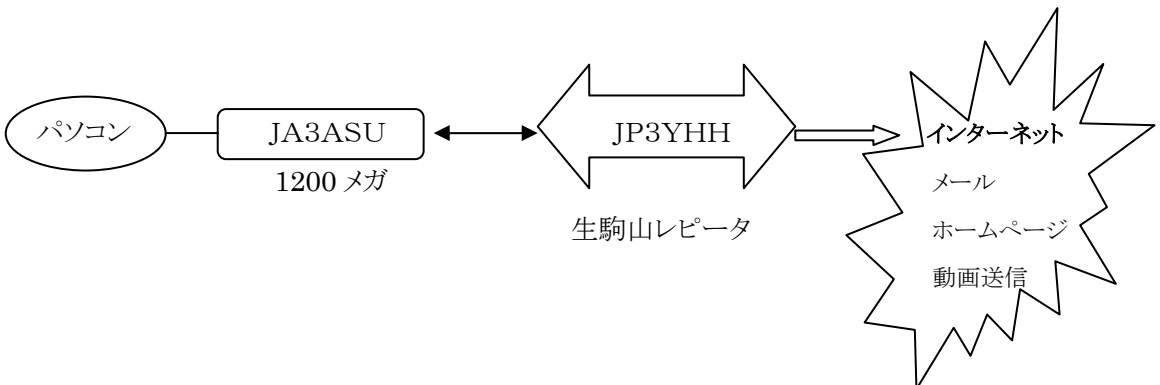
3. インターネット回線で結ばれた複数のレピータを介して全世界のアマチュア局との通信。



4. 430メガ帯と1200メガ帯の局との通信。



5. 1200メガではパソコンに繋ぎ、インターネットができる。



## トランシーバの設定

次の項目を設定する。面倒くさいが、交信できた時の喜びも大きい。

### 1. MY CALL

たとえばJA3ASU 一度設定すれば良い

### 2. YOUR CALL

自局エリア内の一般呼び出し CQCQCQ

特定局呼び出し たとえばJA7AOM

他エリア内への一般呼び出し

たとえば仙台レピータでCQを出す時仙台レピータの前に / を付ける /JP7YEL

### 3. RPT1 自局の最寄りのレピータコール

たとえばJP3YHH A(Aは 430 メガレピータ JP3YHH Bは 1200 メガレピータ)

### 4. RPT2

自局エリア内で交信するときはNOT USEと設定

ゲートウェイ局(インターネットに繋がっている局)を介してエリア外の遠方の局と交信しようとする時たとえばJP3YHH G(Gはゲートウェイ局)

たとえば 仙台にいるJA7を京都から呼び出すとき

YOUR JA7AOM A(430で待機するとき)または/JP7YEL

RPT1 JP3YHH A

RPT2 JP3YHH G

仙台市内で交信するときは

YOUR CQCQCQ

RPT1 JP7YEL A

RPT2 NOT USE

と設定する。

メッセージも設定しておく相手局の画面に表示される。

聞こえている局と交信したいとき、すぐにこれらを設定できないので、トランシーバのCALLボタン(ID92やID91)やTONEボタン(ID800やIC2820)を長押しすると自動設定される。自分の行動範囲を想定して予めメモリーに設定、旅に出るのも楽しみである。

交信中には全く雑音が入らず、距離にかかわらず高品質の通話ができる。また、IC2820などにGPSアンテナを繋ぐと自局位置を送信することもでき、パソコンの地図に軌跡を表示したりできる。しかし、自分のエリア内の局、他エリアから自局エリア内の局と交信している局やCQを出す局以外は聞こえない。仙台で楽しくラグチュウしている局を聞こうと思っても聞こえない。これがアマチュア無線らしくない最大の欠点であろう。

また、日に日にレピータが設置されてきているが、日本津々浦々、全世界とまでは行かない。私はレピータのないところには行かないことにしている。

レピータ開設状況はJARLホームページD-STARのページをご覧ください。

また、ゲートウェイ局を通過させて全国、全世界と交信するにはJARLに登録する必要がある。JARL 会員か否かは関係ない。

コンピュータも無線も好きな方には格好のおもちゃであると思う。しかし、勘違いして思うように働かないことも良くある。困られた時にはメールをいただければ解決できるのではないかと思う。MD NETの後にもD-Starでロールコールできればと考えている。

狭山 信矩 JA3ASU/AB7OB

ab7ob@skyblue.ocn.ne.jp

# 第33回 MARS 総会エクスカージョン

JL1LRJ 安齋 雅夫(埼玉県)

総会を終え、その翌日4月19日(日)は朝から初夏を思わせる日本晴れの京都であった。

総会翌日の恒例は日帰りバスツアーであり、今回は狭山先生の肝いりで比叡山の方向に決定された。バスは総勢23名を乗せて定刻より早めに8時54分に宿舎の京都ガーデンパレスを後にし出発した。行き先は大津市坂本である。当地は、比叡の南側にあたり、叡南ともいわれる。そして、ここには延暦寺を60歳定年になった僧が山をおり弟子の僧を伴って里坊を作ったのにはじまり有名になったと説明があった。

本日の目的地の日吉大社は全国に3800余りの分社をもつ総本山であり、この地に13万坪の土地をもち、国宝2棟、重要文化財17棟を有する山王総本宮でもあるとのことであった。

さて、走る約20分にて眼下に琵琶湖が見えてきた。手はじめに里坊の一つ生源寺を軽く見学した。散策の後、いよいよ両側に花崗岩の石垣の参道を経て、日吉大社、東本宮に参詣した。大宮橋という石橋の周囲には八重桜、石楠花が咲き乱れ圧巻であった。

西本宮の方を軽く散策し、重文の神輿庫と7台の神輿の安置を確認した。次いで、回遊式の小堀遠洲の流れを汲む庭園に足をすすめ、しばしお茶とおせんべいで特別に拝観させて頂いた庭園を見物した。

午前11時に護摩の予約をしてあったらしく、各人それぞれ護摩札に氏名、年齢、そして願いごとを記帳し神社に奉納した。

この神社は、室町、戦国時代にかけて神仏習合の宗教の本山でもあり、神は仏の仮の姿と



して現れたという、本地垂迹説に則っていることで、私には奇異に感じられた。

今、記帳した護摩札は我々のグループと合流した日吉様の信者、あわせて約100名の札ともども、律院にて不動明王の名のもとにこのあと焚かれることとなる。その律院に入場の際に、我々は信者ともども入場し、メンバーはそこでバラバラとなり入場ののち、薄い座布団の上に席をとることとなった。この日吉大社の宗教界では著明な大阿闍梨様が護摩を焚く姿は、正にローマ法皇級の高僧とお見受けした。不動明王真言「ナーマクサーマダー……」の念仏を全員で唱え、小一時間に亘る念仏が展開された。



私は途中で旅の疲れで昼寝をしてしまった

のは不覚であったが、これだけの異教徒の中に我が身をおいたのも生まれて初めての経験であった。この奇異な儀式のあと、高僧から約100名の参加者にそれぞれ三度のご託宣を頭上に頂戴した。涙を流す信者も見られた。

さて、昼食は先程の庭園に戻り取ることとなった。食前にもまず萬物に感謝してこれから食べさせていただきますとの念仏を唱え、箸をすすめることとなる。因みに、白米軽く一膳、昆布だしの味のないお澄まし、沢庵小二片、薄味の旬の煮物、ジャガイモのコロッケと少々ゆでキャベツ、ほんの少々の大根と人参のサラダが提供された。食後も萬物に感謝の祈禱をして食事を極めて健康的に終了した。12時54分にJK1AIN、JR3JJQ氏が所用で失礼とのことグループから離れ帰宅された。きっと、どこかで

お二人とも美味しいものを食べ直すのではないかと勝手に勘ぐってしまった。

そうこうしている内に本日のプランは全て終了とのことにてバスは京都駅南口に向かい13時30分過ぎに到着、それぞれ解散した。

私はまだ時間も早いのもう一泊する予定で、京都駅から地下鉄、阪急そして京福電車を乗り継いで、太秦広隆寺の弥勒菩薩、竜安寺の石庭を見学した。

今回は3エリアの JA3ASU、JR3JJQ 先生方のはからいと及川会長の采配にて素晴らしい会になったことにここに感謝いたします。

日吉大社の異教の社会を初めて勉強すると共に、神仏習合を身をもって経験させていただいたことは大変貴重なものでした。

## 日本医師アマチュア無線連盟(MARS)の活動と入会方法について

MARS は、1977年(昭和52年)に創設されたドクターハムの親睦のための団体で、既に32年の歴史を持ち、次のような活動を行っている。

### 1) 総会と懇親会

毎年4月の第一土曜日の午後、全国各地で総会と懇親会を開催している。(平成22年は4月17日那覇市において開催予定)

2) 毎水曜日の朝、3.568MHz(05:30~06:30)及び7.060MHz(06:30~07:00)付近でロールコール(MD ネット)を行っている。

3) 日本医師アマチュア無線連盟会報(MARS ニュース)を年2回発行している。

4) MARS 医学アワードおよびMARS 医学アワードIIの発行。

5) クラブ局(JM1ZZM)を設置している。

6) MARS のホームページを開設している。

URL は <http://www.jmars.jp/>

(談話室へのパスワードは mars)

事務局:

〒175-0092 東京都板橋区赤塚4-17-11

井上医院内

日本医師アマチュア無線連盟

電話 03-5968-5777

F A X 03-5968-5778

E-mail [fumimasa@cb3.so-net.ne.jp](mailto:fumimasa@cb3.so-net.ne.jp)

会費 : 入会金 5,000 円、年会費 8,000 円

入会方法: 事務局にご連絡下されば、入会書類をお送りします。

会長 及川忠人(JA7AOM)

# 日本医師アマチュア無線連盟

## 平成20年度 7M ロールコール 交信報告

### JH7QFA 渡辺孝志(宮城県)

昨年から続いている太陽活動の不活発さは今年も同じで太陽の黒点が0の日が200日以上、今年も全国的に開けることが無くネットコントローラー泣かせの一年でした。

QFA の7と3とはそれでも何とかコンタクト出来て JR3HGY、JH3GOB、JI3CIN、JF3JONの各局には3から1、7の各局をコールしていただき何とかロールコール成立という日も多々ありました。

20年の11月後半から21年の2月初めにかけてはほぼ連続でコンタクト出来ない事が9週間続いておりましたがその後は少しずつ開けつつあるようでこれから夏にかけて期待をしております。昨年も7月23日にはチェックイン局が9局と全国的に開けて今年一番と云うお空のコンディションの日もありました。

この一年間ネットコントローラーをQRTしておりました JH3AEF、東條OMが先週からリカバリーしており、また QFA と2局で各局をコールします、多くの局の参加をお待ちしております。

毎週水曜日 6時 30分～  
周波数 7.060MHz 付近

20年の5月の総会後から21年4月15日迄の一年間各局の7Mの参加回数を表にまとめました。QFAからコールしての回数であり各局ワッチしていたことと思います。

エリア	コールサイン	参加回数
1	JA1FF	15
	JR1CDJ	15
	JL1BGP	11
	JL1JRJ	3
2	JF1EJS	2
	JH2QBQ	6
3	JH3AEF	2
	JH3GOB	30
	JR3HGY	36
	JF3JON	11
7	JI3CIN	27
	JA7AOM	31
	JA7VAB	5
9	JH7QFA	41
	JE9RWF	6
0	JE0BWH	5

20. 5. 21 ~ 21. 4. 15.



# 第34回MARSウチナー総会の先走り情報

JI3CIN 仲井間 憲要(和歌山県)

2009年4月18日、京都ガーデンパレスにて第33回MARS総会が開催され、京都及び大阪の先生方のご努力で楽しい総会にして頂き、私も参加させて頂きました。懇親会の後の2次会で次期MARS総会を再び沖縄で開催してほしいとの希望が多く有るので、次期総会を沖縄で開催する事としたので協力をお願いしたいと直接、JA7AOM 及川忠人会長から頼まれた。前回の沖縄総会は JH3AEF 東條純一前会長の下、平成17年4月2日～3日沖縄県那覇市久米2-1、グランドオーシャンで第29回MARS総会が開催されました。もう既に4年が経ちました。もう少し古い時の出来事だった様に感じています。次の総会も前に利用したホテル、会場を利用することを視野に調べてみました。すると、ホテル名がグランドオーシャンから**沖縄ナハナホテル&スパ**と変わっていました。ホテルの機能は変わっていないようです。宿泊ホテルはここを第一の候補にしたいと考えています。

さて、**第34回MARS総会は2010年4月17日～18日**に沖縄県那覇市で開催される予定です。総会当日の4月17日は総会開催までの時間を前回と同じ様に利用して早朝より出発し、中部、北部のやや遠い所のエクスカッションを計画したいと考えています。

さて、案内人としての私 JI3CIN 仲井間は4月16日午後最終便かその一つ前の便の関空発那覇行きの飛行機で沖縄行きを果たしたいとおもいます。

繰り返して申しあげますが、中部、北部には

朝早めに出発したい。前回は国営沖縄記念公園、海洋博覧会記念公園の中の**沖縄美ら海(チュラウミ)水族館**と**今帰仁城跡**を必ず見て貰う予定であった。2005年4月2日の北部の天気急変し、美ら海水族館の見物のみに終わった。今回予定しているのは勿論、もう一度、美ら海水族館に行きたいと言う希望者の申し出が多く有れば、また、新しく参加された方々の希望が有れば是非もう一度水族館にも寄る時間を作りたい。「**美ら海水族館の紹介は、MARS会報 January 2005 No. 60**」に記載されています。同じく首里城の見学を希望される方々が多い時には、まず首里城からエクスカッションを始めたいと思います。その次に、今回は**ブセナ海中公園**のある**ブセナリゾート**をコースに入れたいとおもいます。此処には**ザ・ブセナテラス**と言うホテルが有りますが、**2000年7月21日～23日の3日間サミット**に参加された各国の首脳の方々が宿泊されたホテルです。**サミット会議は万国津梁館**で行われたそうです。万国津梁館は**ザ・ブセナテラス**の所有するものではなく、沖縄県の所有する建造物だそうです。万国津梁館の見学はイベント乃至結婚式などが無い時は中に入って見学することも可能だそうです。この万国津梁館では1日1組限定のプライベートウェディングが行われているそうです。特に沖縄県在住のカップルの受け付けはお断りで県外のカップルのみを受け付けていたそうです。最近はかなりの沖縄県民からの抗議で沖縄在住のカップルの受け付けも開始する様になりましたが、沖縄在住のカップルの申し込

みの受け付けについては一ヶ月一組の限定だそうです。万国津梁館が出来てから本日に至るまで何時もガラガラで一か月に数組の申し込みが在るだけでかなりの赤字だそうです。しかし全てオーダーメイドで創り上げられる1日1組だけに限定した結婚式で、結婚の当人、家族、友達などの意見を取り入れたセレモニーは可なり人気があるようです。またこの地の略(ホボ)360度のロケーションは素晴らしいものとおもわれます。この地の一部にブセナ海中公園(海中展望塔)が有り、またグラス底ボートが有りサンゴ礁と熱帯魚などを船から眺めながらの海中散歩も楽しめそうです。また時間の調整が出来れば海中展望塔の直ぐ前のランブルフィッシュ(RAMBLE FISH)というシーフードレストラン(季節的に営業する)か、ザ・ブテナテラスで昼食を予定したらとも考えています。また昼食のもう一つの提案は名護市の「(うふやー)——大きい家・・大家・・百年を経た古い家・・本家・・と言う意味が有るらしい」、此処での沖縄ソバと沖縄料理と泡盛という手もあります。また訪れて見たいところが読谷村の「むら咲むら」です。此処には「琉球の風」1993年1月10日～6月13日まで放送された(NHK大河ドラマ)の町並みセットの建物が其の俣残されて色々のお土産の店として営まれている様です。此処に展示されている焼き物は恐らく中部のコザ焼きで有ろうと思はれます。那覇の壺屋焼きは4月11日に那覇市の壺屋通りに案内出来ればと考えています。話は飛びましたが那覇の「つぼやどおり」では沖縄の「紅型」、「琉球漆器」、「大島紬」「沖縄紬」等が見られるとおもいます。那覇の壺屋焼きはCINの考えでは素焼きの感じで、コザ焼きはウグスリを付けて焼いた焼き物と言う感じ。壺屋焼きは味噌、醤油、泡盛等の醸造

や発酵、熟成などの為に作られていて紡錘形の所謂、壺の形をしている。その他カラカラ(泡盛用の酒を注ぐ器・・絵に出てくるアラジンのランプの形をしている)、茶碗、グイノミ、お皿、ダチビン(携帯用泡盛またはお茶をいれる水筒の様なもの)・・・これ等のクラシックな焼き物をご覧下さい。

名護市に「ヘリオス」と言う泡盛の蔵が有る。美ら海紀行(チュラウミ紀行)という飲みやすい泡盛を造っている。金武(きん)という所の泡盛は「金武酒造」の「龍」という酒で飲みやすくてうまい。両方の蔵の泡盛は飲みやすくてうまい。此のどちらかの蔵元の見学が出来れば良いと考えている。

さて、4月18日のスケジュールはマチグァー(那覇市の公設市場)とチブヤドゥウリ(壺屋通り)を見て頂く予定で有る。このマチグァーは戦前は底なし沼でありました。戦争で旧那覇市内は焼き尽くされて見渡すかぎりの焼け野原となり、旧那覇市の有った所に米軍(進駐軍)が占拠して、軍用トラック、ジープ、戦車、夥(オビタダ)しいドラム缶の山、兵器、銃弾、その他テントや食料などを山積みし米軍のいわゆるキャンプとして占拠されていた。その為、底なし沼を埋め立てて始めはテントを張って暮らしていた。

昭和24年か、25年頃、那覇市が大々的に埋め立てて5～6棟の建築物を作って魚や農産物野采、特に芋(農林105号と記憶)などが売られていた。その後、豆腐、味噌、醤油が出回り、スウェーデンのバター カーネーションミルク、日本内地からの食料品など、L/Cを組んで世界から輸入をして、少しずつ人間らしい生活に戻った。勿論アメリカからの援助物資、小麦粉、ラード、砂糖などは頂いていた。CINは

昭和31年4月、大学に入学し本土への帰国を許された。その後は1年に1回、2年に1回の帰郷で既に和歌山に住み着いて略(ホボ)53年と為った。しかし、マチグァーの様子は余り変って居ない様に思われる。

さて、お土産に沖縄特産の食料品を買うのであれば、マチグァーにかぎる。例の沖縄ソバにトッピングされているラフテー(豚肉の煮しめ)、ソウキブニー(豚の肉つきりブ・カルビ)、ミミガー(豚の耳軟骨)、ウミブドウ、ジーマーミドーフ(落花生のゴマドーフ)、アンランスー(豚肉の入った油味噌)これ等のものは空港の売店の3~4割安で買えるとおもわれる。那覇空港到着時に時間に余裕があれば空港一階の空港売店を回ってお土産にしたいもの、お菓子類、衣料品、お酒など、一応品定めと値段のチェックしながら楽しめば良い。

また、4月18日(日曜日)の午前中のスケジュールは自由行動として三々五々に別れて那覇の街を散策するのも良いのではないか。那覇市内で有ればタクシーに乗れば30~40分以内には空港に乗付けられる。

最後に、那覇の街の夜は午前零時頃まで賑わって居ると思います。条例が出来て深夜まで

お酒を提供していた飲食店の営業が午前0時過ぎまでにならなくなったようです。その影響も有って、お土産などを商うお店も午後10時過ぎには閉店する店もある様です。そして朝の開店時間は全てのお店で午前10時乃至10時30分ごろと為ります。朝早く那覇の街を散策してください。一部のお店が開店している可能性があります。また総会を終えて、夜的那覇市国際通りを散策するのも良いとおもいます。

次回には、もう少し食べ物、お土産などについての情報とエクスカージョンのルートを説明出来たら良いと考えています。

追 美ら海水族館の大水槽『黒潮の海』は長さ35m×幅27m、深さ10m、水量7,500m<sup>3</sup>で、アクリルパネルの高さ8.2m、幅22.5m、厚さ60cm、パネル総重量は135トン有るそうで、水槽ができた当時、ギネス公認の世界最大のアクリルパネルで有りましたが、2008年10月にオープンしたドバイ水族館のアクリルパネルに記録を更新されたそうです。

めんそーれー うちなわえ

## JI2ZEY 2006VK DXペディション報告記

JA2BIV 杉浦浩策 (静岡県)

VKにDXペディションだって? まあDXCC 命のオーナーロールのOMには理解できない。我々の場合は、DXはX抜きでちょっとデラックスにというほどの意。人生の四分の三を過ぎ、時に及んで行楽する、これが本当の贅沢という

わけだ。

思えば、昭和34年に電話級従事者免許皆伝、明けて35年6AR5シングルへのなちよこ電波で開局。以来、会社勤めや自営業で汗水の合間、とにもかくにも電波を出し続けてきた。15

年前、縁合って意気投合、静岡県は榛原郡本川根山中に掘って無線小屋を建立、念願のKWでワールドワイドコンテストで大活躍？してきた。「ご存じ、ほらそれ、あの静岡じゃ強力な」。「ジョニ黒か?」。「ちょっと違うな。まあ寿司はないが、お茶飲みな」。「じゃあ金谷の入り江か?」。「7メガじゃちょっと負けるかな、ほらそれJI2のズルーエコーヤンキーって聞いたことないかね!？」。

トランシーバ以外はすべて自前、一年がかりでパンザマスト、4エレベカルクワッドなどなど、月に一度の日曜日全員集合でクラブ局を建設。よくしたもので7人揃えば、文殊の知恵と金剛力で各人の得意技が冴えたものだ。かくいう当局は、炊事と力仕事を担当。既に百回を超すミーティングで一度として同じメニューを出したことがない。カレーは十回ほど作ったが、すべて別嗜好で、いつも好評。数回、とんでもない失敗作で不評のこともあったが、食べられなかったことはない。イノシシの徘徊する山奥、新月の夜は自分の手も見えないほどの闇の中、懐中電灯で用足しをしながらWW, WPXを頑張ってきた。まあ、いつもベストスリーとは行かなかったが、JAナンバーワンも一回あった。還暦クルーとしてはよくやってきたと感慨深い。

それは2006年梅雨明けミーティングの時だった。食事が終わり、小屋でBHJの入れてくれたコーヒを飲みながら、窓から向かいの山をぼんやり眺めていたら、夏の日差しに天啓か、「おい、ペディションに行こうよ」とCCLがつぶやいた。「今、行かないともう行けないよ」。光陰矢のごとし、いつも間にかクラブ員の平均年齢は60代に突入して数年。「そうだな、2日くらいなら店を閉めてもいいよ」。「俺も2, 3日、工場の機械を止めてもいいや」。皆でカレンダー

を睨む。「勤労感謝の日がある、ここの3泊4日でどこかへ行こう」。「時差はきついからな、VKでどうだろ。相互運用もできるし」。ここでVK観光経験豊富なBBCが、滔々と免許取得法、ケアンズ周辺運転法を立て板に土じゃぶりでまくし立てる。あつという間に2006年11月JI2ZEYのVKエックス抜きペディションが決定。

コンピュータネット扱いと事務作業の得意なBBCが免許取得、航空券、レンタカーなどを手配。英語の得意な? BIVが無線可能なB&Bを探す。工作得意のBHJがアンテナ制作。生活全般年期の入ったCCLが準備。人格円満実直で高所平気症のBILが現場作業および時計係で11月21日の出発日となった。取得コールはVK4ADX、AEF, AEG, AEH, AEJ(なぜかAEJだけ最初はVK3、どうして仲間はずれなのかと文句を言うと、あらごめんなさい間違えたわとVK4AEJの免許状を送ってきた。JAでは考えられない間違い、VK免許係お姉さんのご愛敬)。長老BY、新入りBQX、中入りIXSは諸処の都合でお留守番。

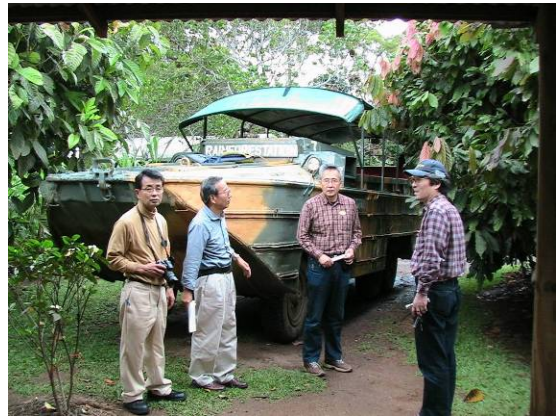
出発の前の晩は、久しぶりに小学校の遠足気分で荷物の最終点検。午後1時15分JR静岡駅前に全員集合して東名バスで出発。これが音に聞く「セントレア」か、成る程海に浮かんでおる。午後6時過ぎのせい、人気は少なくちょっと寂しい。無線機は手荷物でもよさそうだったが、15キロあるので、空港入り口で差し止めをくらいQRTになってはまずいと梱包して荷物として預けることにした。BHJが壊れ物ですよと念押しして別ルートから搬入させる交渉をしてくれる。

夜間飛行なので眠れるとは思ったが、BILと仲良く睡眠薬を半分こ。効果てきめんで爆睡、タッチダウンのショックで覚醒。まだ薄暗いケア

ンズに、五人ご一行様無事到着となった。

入国審査、荷物待ち、レンタカー手配。あっという間に一時間が経ち、夜が白々と明けてきた。借りた車は日産RV四輪駆動ディーゼル、VKは慣れている俺に任せろと言うBBCの運転で出発。当局はクラブでは身体が大きい方なので、助手席に座り、ナビゲートする。朝食を食べる店を見つけることになったが、まずは土地勘を付けようと明け方のケアンズ市街を一回りする。午前7時のせいかほとんどの店は閉じており、通りに人気も少ない。めざとく町はずれに、一膳飯屋を見つける。要するに卵の調理の仕方と付け合わせが変わるだけの7、8種類のメニューの中から、ハムエッグとコーヒーを選ぶ。5ドルなにがしが、安いのか高いのかよくわからんができたてなので、おいしく食べられた。

目的地はテーブルランドのアトン。キュランダ経由の北回りのルートを選ぶ。キュランダ周辺は台地で数百メートルの標高があり、山道を蛇行しながら車を走らせる。平地と違い、周りに見慣れない木が茂り緑が濃くなる、「ケアンズの緯度はフィリピン並みの亜熱帯なんだよねー」とCCLが独り言で解説。坂道が終わり平らになって数キロ走ったのだろうか、右手に広い駐車場と池が現れ、NATURE PARK と書いてある。「まだ十分時間がある、見てゆこう」。開門したばかりの様子、他にはお客は誰もいない。第二次大戦の遺物、水陸両用車アーミーダックによる熱帯雨林見学ツアーだって。面白そうだな乗ってみよう。「朝も早よから酔狂な、まあお客5人でもいいや」とは言わなかったが、「日本語解説なしでもよけりゃあ」と運転手のジョンさんが水陸両用車を出してくれる。身振り手振りのゆっくり英語で、日本語並みによくわかる。途中駐車し、道ばたのスピードのような葉をし



た草を指さす。「これに注意、絶対触ってはいけません」。毒針があって触るといつまでも痛くて大変。間違って野糞の後でこれを使って、糞死した人がいますという。「ふーん」と了解。VKには木登りをするカンガルーの親戚は居るが猿や虎は居ないのでと教えてくれる。確かに、猿が居ちゃあ、おちおちこんな無蓋車でジャングルを走れないよなあと思う。進化の上でも別大陸の証明と言うわけだ。それがDXCCではたったの一カントリー勘定とは役不足だなあ。

アトンまであと30分。なだらかな丘陵を縫って舗装二車線路が続いている。ほとんど対向車はなく、90kmで飛ばす。地図で見ると湖があるようだ。見て行こうと適当に左に折れる。別荘風の売り家から湖が見下ろせる。「BIVこれ買ったら」「そうねえ」。一瞬心が揺らぐ。絵に描いたように美しい湖畔には人っ子一人いない。「誰もいないなんて、JAじゃあ、あり得ないね」とCCL。ちよいと試験電波を出すべえと木立にかねて用意の重し付き凧糸をBILが投げる。届かない。選手交代とBIVが投げる。3回目に5mくらいのところの枝に引っかかる。直ちに15mと20m2本のダイポールが完成する。ちよいと低い水辺だから、飛ぶはずだとFT857のスイッチを入れる。15mは静かなもんだ。VKらしいラグチューが微かに入るだけだ。CWは

どうかと低い方を聞くとJA6のクラブ局が CQ を出している、539くらいだ。早速呼ぶが、かすりもしない。3回呼んでも駄目なので20mに下りる。似たようなもので、YBらしいラグチューが55くらいで聞こえるだけ。午後2時じゃあまだ早すぎるんだと店じまいをしようすると、CCLが最後の一投とCQCQデイスイズVK4AEGビクターキロフォアメリカエコーゴルフとやった。そんな短くちゃあ、魚がかかるわけがない、駄目さと言おうとしたら、左端に張り付いていたSメータがふわっと浮いて5まで跳ね上がり、英語が響いた。「VK4リマなんじゃらんじゃらん」。「およよ」。呼んできたじゃん。「ユアースIGNALイズ55。マイネームイズアキ」。エーと次はBIVあんたがやれとマイクを渡される。エーもうファイナルなの、初めてのダーリンなのにCCLレモンは冷たいなあ。

「オペレータ交代しました。日本からDXペディション違った、無線がてら遊びに来ています。名前は KOSAK です。今アタソテーブルランドに居ますよ、どうぞ」。ゴールドコーストの局とのことで、ビームを回してくれSが上がり、57になる。そっちに別荘を建ててQSYする友達が居るとかどうのこうのと話が長い。丁寧に答えているとキリがなさそうなので、「どうもありがと、移動を開始するので、ほんじゃさよなら」とファイナルを送らせてもらう。

「2時半だ」とBIL。チェックインできる時間になったので、宿泊地に向けて出発。「来た道と違うじゃないか」というBBCの抗議におかまいなく、こっち方面のはずだから大丈夫と別ルートを選ぶ。15分ばかり田舎道を走ると、馬鹿でかい屋敷が現れ、それを過ぎるとこれよりアタソと言う標識が出てきた。T字路を左折、家並の濃い方へ進む。これがアタソの町か、なん

てきよろきよろしながら並木道を2分も走るともう町はずれ、家がなくなる。あれれと左折、住宅地らしいところに車を止めて、予約のB&Bブルーガムはどっちかと考える。あーでもないこーでもない意見百出、確か高台から町を見下ろしている写真があったのを思い出し、そうするとこんな感じだなと、「ちょっと先の右側じゃあないかと思う」と意見を言う。「じゃあ、行ってみよう」。「あれー、あそこだ。BIVよくわかったねえー」とCCLがしきりに感心する。ちよいと坂を登って、前庭に駐車する。木造2階建て築15年というところ。本物は写真ほどじゃあないなあ。もともと、これは95%の確率で起こる宣伝写真と現物との不一致なのだからはしない。

女主人とおぼしき、やせぎすで大人しそうな30代の女性が出てきた。「私ヘレン、あなた達、無線をやる人たちね。よくいらっしやいました」。へー、顔見ただけでわかるんだ。いや、驚くこともないか。日本人とおぼしき東洋系のおじさんが5人ご到着。予約はこの一組とくれば、誰にも解けるクイズなのだ。

案内された部屋はツーベッドルームで一階だ。部屋の広さは良いのだが、アンテナを張るのはちよいと難しそうだなあ。ベランダの手すりに凧糸を結びつけて傾斜ダイポールを張ればいいか。西は開けているのだが、JA方向はもうひとつだな。まあ、しかたあんめえと線を引きずり回し始めると宿の主人が出現。ケビンコスターのような良い男だ。「私ジョンです。これ困ります。通り道、首に引っかかったら大変」。「すいません。脇によけて、もう少し高く張ります」となんとか許してもらう。そうなると2、3mの棒が要るね。早速、BILとDIYへ棒を買いに行く。係のお兄さんに、棒のつもりで手を広げジェスチュア、「一体何が欲しいんですか?」。と首を



ひねっている。「これでいい」となんだかわけのわからん3mばかりの角材を見つけ出し、5ドルで買ってくる。地上高3m傾斜型の15mと20mのダイポールアンテナがどうにか張れた。



まだスケジュールまで2時間あるから、腹ごしらえだ。ヘレンさんが教えてくれた町唯一の高級レストランへは行かない。日本人だから小金持ちと思ったら大間違い、我々は半ちゃんラーメン、牛丼で十分。そうは言ってもVKではなあと。わずか150mの繁華街？をのろのろ運転しているとケバブの店があった。とBHJとBIVがほとんど同時に声を出す「これがいい」。まずBIVが注文の仕方のお手本をやる。数、大きさ、挟む中身そして最後にたれの種類、つまりワン、スモール、ビーフアンドマトン、サウザンドアイランドのように。JAだったら敬遠したろう羊肉も旨い旨いと好評で、各局ご満悦だった。



腹ごしらえもできた。あとスケジュールまで一時間弱、果たしてこんなアンテナで聞こえるかなーとJST245のスイッチを入れる。15mは静かなもの、20mもVKが数局57くらいで聞こえるだけ。ラグチューでも聞こえないかと下の方を聞くとJA1の局が一局160あたりでCQを出している。ロングパスヨーロッパねらいか、57くらいだ。試しに呼ぶと応答あり。57のリポート。50W低空ダイポールでも意外に飛ぶなあ、しめしめ。聞けば5エレフルサイズ1KWとのこと、静岡の短縮3エレ100W連中が聞こえるかなあとちょっと心配になる。CQでもだそうかと空いた周波数を探していると突然、ジョンがにゅっと現れて窓をノックする。急用のようだ。なんだろう。「えーと、無線というのはテレビに影響するかね」。まずい、インターフェアかなと思ながら「時にはそういうことがあります」。と答える。「テレビが見えなくなってしまうんで困るんだが」。やっぱ、事前にTVIをチェックすべきだった。「やめられないかね、子供達の漫画はいいんだが、私はどうしても6時半からのニュースは見たいんだ」。「えーっと7時から、スケジュールがあるので5分だけ、出たいんですが」。「あー7時過ぎたら、構わないよ、どうせ早く寝るから」。とお客に気を遣ってか、ニュース以外はもともと興味がないのか、穏やかに言って帰っていった。皆で顔を見合わせ、ほっとする。まだ6時半まで数分あるので、早速テレビをつけて、TVIをチェック。10Wに絞っても、全チャンネル横縞どころか、真っ白けで何も見えなくなる。BHJがこれは受像器の問題だねという。そうかVKのテレビは0-V-1だったんだ。

きっかり7時にBQXが14メガで呼んできた。さすが山の設備で落成した1KW局、強い。Sが8まで振れる。「おーいほんとにVKまで来た

ぞ、元気でやっているよ」。とレポート交換。「TV Iが出ちゃったんでショートで、21に上がるよ」。QSYしようとするSは弱いノイズを押しつけてLRWが呼んで来る。さすがアクティビティナンバーワンの地獄耳、佐野OM。「55のレポートを送る」。59のレポートをくれる、インフレカ、最高級リグの成果か。21メガでもショートQSO、BQXサイドのIXSとも二言三言話す。次回はなんとかしてIXSを連れ出そうと考える。仕事、仕事で遠征できないというが、あの世からはオンエアできないからなあ。元気で歩けるうちだぜ、お父さん。

翌日は晴天。朝飯の時、ジョンさんに周辺の見学すべき場所を教えてもらう。無線は夕方からやるので、早速ドライブの計画を練る。朝、出発前にまず土地勘を付けようと車で周辺を一回り。宿の後方の高台に公園を発見、公設バーベQ小屋があり、AC電源も来ている。公園の草刈りのおじさんに「ここ使ってもいいですか」と聞く。「もちろん」。「いくらかかるの」。「もちろん無料さ」。しめた、今夕はここでバーベQしながらオンエアだ。ここなら7メガも張れるし、TVIの心配もない。たっぷりテーブルランドの観光を楽しんだあと、食品を買い込み、午後4時に戻ってくると、幸い先客は誰もいない。早速、地上高3mの7, 14, 21のダイポールを張る。用意周到BIL持参のMFJでSWRを1.1まで追い込む。さて7メガはどうじゃとJST245のスイッチを入れる。たいして聞こえないねえとぐるぐるダイヤルを回していると、Sメータを9プラスまで振らす電波がある。放送局にしちゃあ、ちょっとゆっくりでなまった英語だなあ。なんだか聞いたことのある声だと思ったら、JA1DOTの小林さんではないか。えーJAで聞くより強いじゃん。静岡ではいつも57くらいで本当にDXに飛んで

いるんだろうかと、怪訝に思っていたが、さすがモノホンのDXサーの電波はローカルを飛び越えて飛んでいるのだと納得。南米とのQSOが終わったのを見計らい、呼ぶと一発で「ユアア59プラス、マイネームイズヒサ」の応答あり。種明かしをすると、「あー杉浦さんですか、ご無沙汰しています。遠距離なのでちょーどいい。マイクロフォンのレポートをください」だと。恐れながら、どうも名もないカラオケマイクが、良いなどと言うレポートを送ってしまう。選手交代、パイル裁きが得意のBBCがマイクを握り、JAを呼ぶ。100Wダイポールの局はだいたい、Sが3から5くらいで7千キロの距離を感じる。急にざわめきが消え、隣の部屋から呼ばれるようになじみの声が響いた。ブラボーヤンキー、西野さんだ。信号が頭一つ出ているわけでもないのに、浮き上がって聞こえる。電波にも格の違いがあるのだろうか、不思議だ。「やー、どうもどうもとご挨拶する。」



いつの間にか展望台の公園は闇に包まれ、満天の星だ。標高800mのせいか、夜風が冷たい。BHJとCCLが南十字星を探している。「あれかな」。どうも、南十字星らしい微かな台形の星の並びが南方の地平に浮かんで見える。不意に杜甫の詩を思い出す。昔聞く洞庭の湖、今登る岳陽楼。たとえ非珍局VK4でも、いやあ、来て良かった。

# 道楽(前篇)

## JH3AEF 東條純一(大阪府)

趣味といおうか、道楽としようか、とにかく人生の何%と勘定できる位の長大な時間を費やし、莫大な資金をつぎ込んで、WIFE には、やんやと愚痴られながら、私は今、ようやく HAM の世界で初期の目的の一つを完遂しつつある。何の資産が貯まったわけでもない。世の中から喝采を受けたわけでもない。世の中では少数派のアマチュア無線の世界の、その中でもまた 1 グループである DXCC hunter の集まりで、一つの決まりごとを完成させたまでのことである。結果として、毎度のごとく故 JA3ARY 大門 OM にひにくられてきたとすり、金にもならない QSL Card がたまっただけである。

それでも本人は、いたって爽快で、充足感に満たされている。なにかしら自信のような、プライドのような快感にも浸っている。片方では何が DXCC や、あほらしい、オモチャみたいなことしよって、という鋭い視線も感じないではないのだが。

まあいいか、DXCC を肴に飲み、食い、何時間でも楽しく喋れる仲間が沢山いるのだから。時には世界中からそんな仲間が集う楽しい Meeting も開催され、実に気楽に参加できるのだから。

これ即ち DOURAKU というたぐいのものなのか。

そろそろ本題に入るとしよう。ハムにとってアンテナは車の両輪のような関係であろうか。片一方でも無ければ何も始まらない。時には名わき役にもなるが、時にはもう一寸と小言の一つ

も言いたくなる。ANT はまるで女房の存在みたいなものかも、、、。大きく違うのは、嫌になったらいつでも取り換えがきくということか。大枚をはたけばそれなりに立派なものもくらし、財政ひっ迫時にはそれなりに質素なものでも通用する。和製にあきれば W からでも EU からでも素材に事欠くこともない。

話は初めからいささか脱線ぎみである。少し修正しよう。RIG 然り、アンテナ然り、タワー然り、もはやアマチュア無線技師として技術に腕をふるうことの少なくなってしまった技師ではあるが、まだ何と無く割合簡単に技師まがいのことのできるのはアンテナの分野だろうか。といった具合で今回は、私の Dx Hunting と ANT と SSN の係わりについてお話を進めさせていただくことにする。

私にとってアンテナは、いや屋上に横たわるアンテナの残骸は、ハムライフの一こま一こまを象徴するランドマークのような存在である。それゆえ何となく愛着があり捨てがたく、エレメント、ブーム、マストへのクランプ、その他の細かいパーツまで、アンテナごとにまとめて横たえている。けっして捨ててしまわないのは私流なのか、それとも、初期のころのアンテナハンドブックを原典に、少なくなった竹ざおを探し、テレビのアンテナをつくる町工場から無理を言ってせしめてきたアルミパイプを材料に、八木アンテナや HB9CV、クワッド、さらにはスケルトンスロットとかいうハイカラなアンテナを作ったときの苦勞がしみついて、そのような行動をとらせているのかも知れない。

たとえ何年も、いや中には十数年もの永きにわたり、空中で私のハムライフに貢献してくれたとはいえ、アンテナなんていうものはそうたやすくボロボロになってしまうものではない。いや、そうならないように造られているのがアンテナなのだ。エレメントにしても、ブームにしても、ましてやトラップやローディングコイル、マストクランプなどは、例えそれが錆びついていても、若き日の私なら喉から手が出そうなくらい欲しかったパーツばかりである。捨ててたまるか。といった感覚でローカルの若い連中に「古いアンテナあるよ、あげるよ」と情報を流してみた。

予想に反し手をあげた人はゼロにちかい。皆お金持ちなのか、HF のアンテナを上げるスペースに問題があるのか、HF 人口が少なくなったのか、全てがその理由なのかも知れないが、全く予想外の結果であった。

ちなみに今こころがっているものは AV12AVQ (トライバンドバーチカル), TA33 (定番のトライバンド 3 エレ八木, この間 QSY), TH6DXX (知る人ぞ知るプレ DX サー御用達の 6 エレトライバンダー), 205BAS (少々マニアックな 14 の 5 エレフルサイズ八木), CL204A (プレマニアックな 14 の 4 エレフルサイズ八木), 218A (一寸毛色の変った 21/28 の 4 エレデュオバンダー), AFA30 (10 メガ専用の 2 エレフエイズドアレービーム), CD78L (街中でこれを振り回すのはさすがに私も気がひけた 3.5/3.8 メガ用短縮ダイポール、嫁入り話あり)、ローテーター一台といったところである。

ついでにタワーについて。当時タワーを持ち、その上に HF の八木アンテナをのせている局などなかなかお目にかかることはなかった。私などはインバーテッド V、後にバーティカルのトライバンダーがやっとであった。それでも「東條

君、ラッカダイブが出ているよ」などと突然電話して下さったりした故 JA3CV 笹岡 MD のお宅には、早くからタワーと HF の八木アンテナがあがっていた。車で 20 分ほどのローカルだったので、夜な夜なその構造を探りに出向いたものだった。その結果、私のところにもタワーもどきが建つ結果となった。現在の建物以前、木造二階建て診療所の屋上には物干しがあった。ローカルの町工場のオーナーであり、かつハムの故 JH3BKS 氏から知識を得ながら、L 型鋼、C 型鋼を組みあげて 5m ほどのタワーをおったてた。私なりに気に入った挙句、もう一本 3m 程のも組み上げて Twin Tower と粋がった。当時はタワーを越す建物も無く、てっぺんからは 360 度の視界が開けた。奥様がおめでたで



写真 1 旧建物上に建てたツインタワー。ハム活動の方向性が決まらず、さながら ANT の品評会



通院に付き添って来ていた(故?) DJ5RT Fred は、躊躇もなくタワーに登って DJ はあちなどと話はずんだ。自前のタワーではあったが TA33、次に CL33 とのコンビでかなりの実績が上がっていった。開局して数年が経過し、がきの頃からの夢であった海外 QSO、DXCC 狙いが現実のものとなったのはこの頃であった。(写真1)

KR6 の沖縄米軍の軍人が唸るように強力な信号で Phonepatch を通じ W の家族と長時間 QSO するのを、声をひそめて Watch したのをはっきりと記憶する。Cycle20(1968~1972)も最盛期だったのだろうか、とにかく馬鹿強い信号が多かった。(図1)

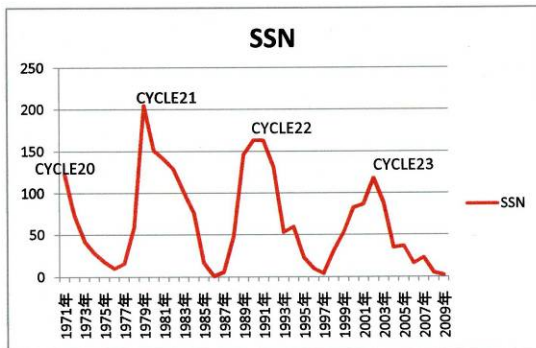


図 1

図 1 過去 40 余年間の SSN の推移

近年はサイクルを重ねるごとに活動の低下傾向がみられる。

左端からサイクル 20, 21, 22, 23

縦軸に黒点数をとる

ぼちぼち国産や W 製のタワーが市場に流通しだした 1975 年、私の木造診療所は新しく鉄筋二階建てとなり、屋上にはタワーの基礎も施された。建ったのは米 TriX 社の LM470D、全伸 22m の電動 4 段のクランクアップタワーである。タワーは新しいドボヅケメッキの色が鈍くシルバーに光り、まばゆいくらいであったが、新築の真っ白な建物壁とマッチして、町工場街ではひときわ目をひいた。ANT は使ってきた CL33

がそのままのった。(写真2)



写真 2 新設の LM470D タワーと、それにのる CL33。脇に 12AVQ パーチカル ANT

Cycle21(1979~1983)の到来をひかえ、せっかく Tower も建てたのだからと、次にのせたのはブーム長 7m、最長エレメント 9m、6エレメントの TH6DXX。SSN200 超えの Report もでる Cycle21 の最盛期には、私の DXCC Hunting は快調に進んでいた。中でも TH6DXX の 10m バンドは 5 エレとして働き、サイクルの



写真 3 Hy-gain TH6DXX

最盛期ともあいまって First call first return の快感も幾度となく味わわせてくれた。Cycle の最盛期を過ぎる頃は、私の獲得 Country 数は 200 の大台にのっていた。その後も TH6DXX は太陽黒点の如何を問わず、私の運用に大いにこたえてくれた。(写真3、図2、3)

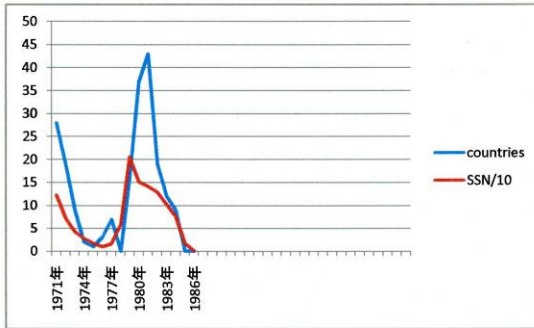


図 2

図2 サイクル 20 21 における年別カントリー獲得数。黒点活動が活発でなければカントリーもかせげない

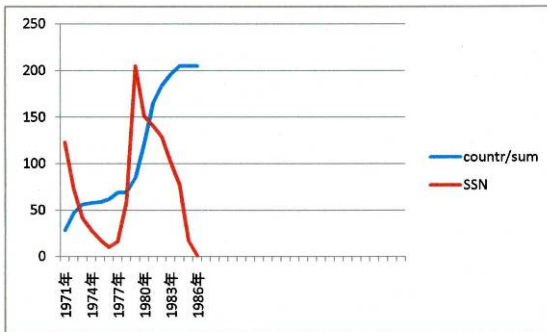


図 3

図3 サイクル 20 21 におけるカントリー獲得総数の推移

しかし、タワーを建てる局、八木アンテナを設備する局も多くなり、何よりも局数が急速に増加し、何でもかでもいただきとはゆかない状態になりつつあった。さらに私の DXhunting も通常の Over sea 局では飽き足らない領域に入り、狙うは珍局、或いは、数年に一度の Pedi 局が対象となり始めていた。

確実に狙った局をとにかく陥とすには、通例 Pedi 局が最初に運用を始める 20m Band を

確実に射止めるのが鉄則である。私にもその為の設備が必要となってきた。そこで採用したのが 20m Band full size の 5ele の八木アンテナ Hygain 205BAS であった。初めて 11m 超えのエレメントと 10m 超えのブームを組み上げた時には、実際このアンテナをタワーの上に揚げられるのか大いに心配であった。何週間もの時間を費やし何とか自分の手でアンテナをタワーの上に固定出来た時にはしてやっつかりの感があった。更にその上に 15m, 10m 4ele 八木 (Create218A) をのせたのだから我ながら「ちとやりすぎかな」、、、、(写真4)



写真 4 Hy-gain 205BAS と Create 218A

タワーを全伸すると地上高 30m、自前の C 型鋼製のタワー時代からすれば隔世の感があり、さすがの 5el full size 八木もこの高さに収まれば心地よい大きさに映った。そして、そして、打ち出す信号の威力は敵何するものぞの感があり、Country は増やせるは、パイルはぶち抜くは、最も充実した一時期であった。ただ 218A、15/10m の 4 エレは、それまで使用してきた TH6DXX の 10m の威力があまりにも強力であったため、かなりの実力低下となってしまった。ただ空の状態が今よりはよほど良かったのであろう。根気でアンテナの弱点をカバーすることの出来る時代であったようにも思える。



次に来た Cycle22(1989~1992)は SNN が 160 超えの年が2年、その前後に 130 超えの年が2年と DXHunter には願っても無い好条件の年回りであった。Cycle22 が陰りを見せ始めた 1994 年には Country 数はいよいよ 300 をこえていた。(図4、5)

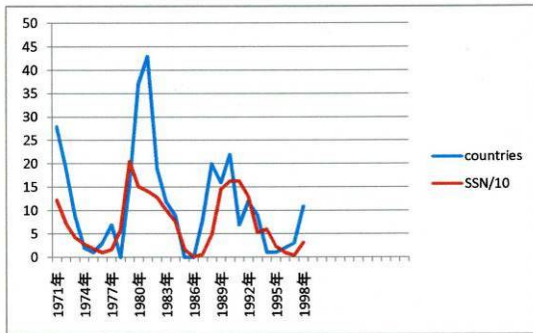


図 4

図4 サイクル 20 21 22 における年別カントリー獲得数

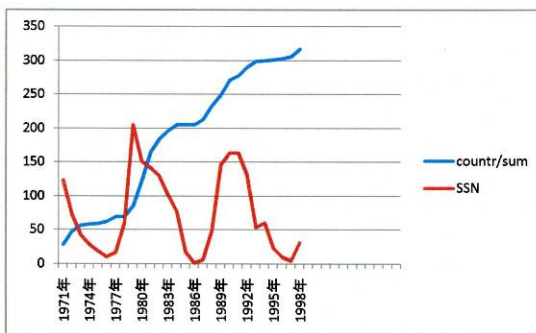


図 5

図5 サイクル 20 21 22 におけるカントリー獲得総数の推移

HF 帯での DX 通信は太陽の黒点周期に左右される。また、その黒点数は約 11 年の周期で増減し、黒点数が多い時期ほど HF、その中でも周波数の高い部分での通信が容易、確実に行うことができることは、誰しもが知るところである。しかし、私がいま、自分の DX Hunting の歩みを後方視的に見たとき、ごく当たり前のように言われてきたことが、これほどまでに強い因果関係で結ばれていたとは想像だにできなかったことで、今更ながら人と自然のつながりの

深さに感動させられた。

局の運用にも力がいり、タワーは上げっぱなしになることが多かったが、まわりは町工場であったり空き地であったりで、何年もの間、まわりの目を気にすることも無くハムライフを楽しむことが出来た。しかし、時代の波は大きな変換期を迎え、散在していた町工場は次々と郊外に移転し、跡地には、こともあろうに高層マンションが建つ時代に突入していった。そしていつのまにか、30m のタワーたりとて安心していられる状態ではなくなっていたのだった。

設置当初ドボヅケメッキのシルバーに輝いていたタワーも、大阪の街中のスモッグと粉塵にさらされ続けるうちに、メッキが落ち、特に日陰になる北西面はすっかりどす黒い錆色に変化していた。建設時関与した業者もタワー事業から撤退し、メンテナンスもままならぬまま数年が過ぎていった。上げ下ろしをコントロールするワイヤーはステンレス製だから大丈夫とは聞いてはいたが、台風の時ぐらいしか降ろさずに上げっぱなししてきたタワーは、足元について引き降ろすにも不安が募るほどの永い年月、25~6 年が経っていた。(写真5)

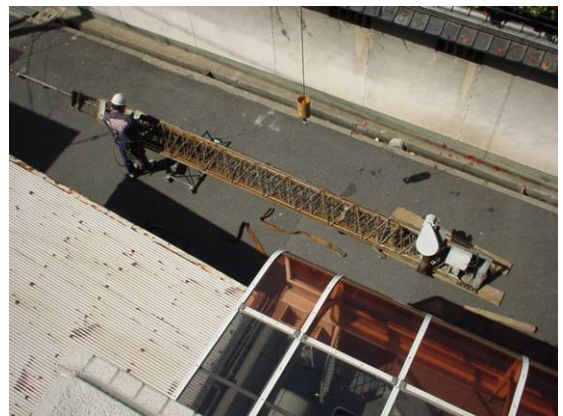


写真5 錆び色も激しい旧 LM470D タワー

ハムショップを通じて打診するタワー関連業者も、取りあえずはやって来るものの、一向に具

体的な話には至らずじまいであてにならなかった。と、ある年の春、関ハム(関西ハムフェスティバル)の会場に関東のアンテナ業者(FTI)のブースを見つけ、それとなく日頃の悩みを話してみた。基礎は既存の鉄筋の建物であること、永らく使用してきた 470D が現用中であり、基台は建物自体に施されていること等が主たることであった。と、以外にも FTI 社のある機種が今の基台にそっくり取り付け可能という回答であった。何?うちの W の 470D やで!あまりの即答に一瞬危うさを感じ(この部分は FTI 社にはまことに失礼、後に絶対の信頼に変化)、その場はそそくさと退散した。その後も仔々細々にわたるやりとりと検討の結果、あらゆる不安材料は払拭され、遂に翌 2002 年 5 月 FTI 社製 FDX472J 全伸 22m4 段電動クランクアップタワーが従来の基台の上におさまった。



写真 6 タワーの入れ替え、ANT の載せ替え全てが一日で終了

C型鋼のツインタワーから数えて実に 3 代目のタワーである。(写真6)

あれだけ労力と時間を費やしてやっとの思いであげた 20m5エレ Fullsize の八木や、更にもその上にある 10/15m の 4 エレ八木の載せ替えなど、FTI 社の熟練の技師連の前にはいとも簡単な作業のように映った。Tower の入れ替えなど数日を要する難工事かと思いきや、たった 1 日で全作業が完了してしまったのにはおたまたまげた。何よりも、彼らの仕事に対する誠実な姿勢と、確実な仕事ぶりにはすっかり魅せられた。以来、私はあれほどおそろかにしていた Tower のメンテも、ANT の載せ替えも、きまっで彼らにお願いすることにしている。

ただ、ANT の組み上げや調整は必ず自分で納得のいくまで試行錯誤し、アマチュア無線技師の面目を保つ努力を忘れないように心掛けていたつもりである。

FTI 社はいまやアマ無線界では知らぬ人のないほど有名になった Tower, ANT の会社であるが、会社が東京八王子市にあるため、関西をはじめ地方からは距離感があり、何かと不安を抱く人がいても不思議ではない。しかし、彼らの仕事に対する誠実さと仕事の確実さは実に信頼に足るものがあり、このことは関東の業者という距離感からくる不安をはるかにしのぐ重要なポイントといえよう。私は常に、少し時間的余裕をもって連絡を入れるよう心がけている。

さて、あまり印象にないのだが、DXCC 何 Country との表現が Entity という表現に変更になったのはこの頃からだろうか。List 上の名前と Country、Entity の語意を正確に考えれば、確かに Entity と呼ばれて然るべきと感じる。

ところで、私のシャックの Main Rig の上方に

は今も古ぼけた紙切れが張られている。用の終わったお御籤が植木にくくりつけられ、よれよれになっているように。書かれた文字を読むのも苦勞なくらい古びている。しかし、私にとってこの紙切れこそ毎日毎日にらみ続けた大切なものである、いや、ほんの数か月前までは私を縛り付けていた大切な紙切れだったのだ。1998年も終盤にちかい頃だったと思う、残っていた 15 Entities の Prefix と JA からの方位をメモタ覚書である。そのため用事の済んだ Entity には力強く斜線がひかれている。斜線だけはいづれも黒々と判別できる。このあいだ、最後の一つ KP5 が真新しい斜線で消されたのだった。

私を悩ませた 15 の Entities とは以下のようなものである。人によっては、コツンと出会って何ほどのこともなく終わった Entity も少なからう。しかし、TN と SV/A は EU のさる DX Net に来る日も来る日も Show Up し、私はもてもしない JA 局ですという引け目を耳いっぱいを感じながら、目的の局の On Air を待ち、苦勞の末にやっとの機会を得て QSO にこぎつけた労作中の労作であった。考えようによっては抜けないドパイルを必死になって呼ぶ方がどれだけ気分が楽かとも感じられる労作であった。年月は QSO を果たした日付である。

CY9(St.Paul Isl, 1998)

8R(Guyana, 1999-2)

SV/A(Mount Athos, 1999-3)

TN(Congo, 1999-3)

PY0S(St.Peter&St.Paul Archipelago, 1999-3)

3C0(Annobon Isl, 1999-9)

5A(Libya, 1999-10)

VP8so(South Orkney Isl, 2001-12)

TI9(Cocos Isl, 2002-2)

P5(North Korea, 2002-5)

VK0M(Macquarie Isl, 2002-6)

VP8sg(South Georgia Isl, 2002-10)

CY0(Sable Isl, 2002-11)

VU4(Andaman&Nicobal Isl, 2004-12)

KP5(Desecheo Isl, 2009-2)

TN, 5A, P5, VUa/n, は政治上の理由により、SV/A は宗教の戒律により、KP5 は環境保護上の理由により、他は絶海の孤島であるがゆえにというところが QSO が困難な原因であったと考える。8R はハム人口も少ないのであろうが、私とは相性が悪かったのかもしれない。

2002 年という年は Cycle23(1999~2003)の最盛期にあたる年でもあった。しかし SSN は従来の Cycle ほど活発ではなく期待を大きく下回ってしまった。一方、DX 界は非常に活気があり P5 北朝鮮、CY0、TI9、VK0M、VP8G など Activity の低い Entity からの Pedi が目白押しに実施され、その上 3 つの Entity が新しく DXCC の List に加わったりして我々 Hunter を喜ばせた。私も首尾よくこれらの Entity をいただき、ついに DXCC HONOR ROLL member の一員に加わることができた。DX hunting を志してから 32 年の歳月がたった。Shack を飾る定番の楯は当然のことながらお金を出して送られてくるものであるが、「おめでどう、あなたを今日から HR メンバーの一人としてお迎えます」などと大見出しで書かれた印刷物が送られてくるなど ARRL の、いや、アメリカ人のかも？ Entertain 精神の豊かさを感じながらも決して悪い気持ちはしなかった。(写真7)



写真7 壁を飾る楯とステッカー類

HR 入りをはたし、Dx hunting も VUa&n、KP5 を残すのみとなり、いつ実現するわからない Pedi を待つ間にと、同じく ARRL の出す 5 BAND DXCC に挑戦することにした。5 BAND とはもちろん 3.5、7、14、21、28 の各バンド、いずれのバンドでも 100 entity 以上の QSL が求められている。上の 3 バンドはすでに 100 以上あるとして、7MHz は BAND も開けやすく、すでにいくばくかの蓄えもあったが、3.5/3.7MHz はかなりの難関のように思えた。まず 40m から始めたのは、HR 入りしてすぐの 2002 年 9 月であった。Tower にある 20m のビームは何時あるかもわからない Big pedi のためにどうしてもおいておきたかった。仕方がない、Tower に DP をはり DX 局の多い 7MHz band の下の方で、日ごと Band new 探しに没頭した。Watch を続ければそれなりの成果はあがっていくものの、DP では Pile には全くの無力、敗北感に泣く日が続いた。

そんなある日、JA3LDH 高井先生が来局された。私は数年前、OM の SHACK にすでに HR と 5 BandDXCC の楯がしっかり飾られているのを見せてもらっていた。彼は ANT を見て開口一番「飛びそうな ANT やなあ」。勿論であ

る。自慢の 20m 5 エレ Fullsize ですもの。しかし、今、5 Band DXCC 狙いの 40m DP で悪戦苦闘している話になった。やっぱり 40m もビーム ANT やでというところに話は落ち着いた。年が明けて 2003 年 4 月、後ろ髪を引かれる思いで 20m 5 エレを降ろし、クリエート 714X-3 というこれまたマニアックな 5 エレ八木があがった。ブーム長は先の ANT と変わらないものの、エレメント長は長いもので何と 14.4m と、先の ANT を遥かにしのぐ長さである。40m は 3 エレとして働くが 14MHz、21MHz は 4 エレとなり、14 の 5 エレに比べるとかなりのゲイン不足になった。その上 28MHz も WARC Band も無い。しかし自分の今の目的、7MHz の DXCC を大台にのせるにはこの選択が最適と考えた。突然残りの VUa&n や KP5 の Pedi が始まっても何とか対応のとれる ANT だと考えるしかなかった。



写真8 Create 714X-3 と上にある CD78 のヤジロペー

さらにその次も考えて、マストのてっぺんには 3.5 / 3.7MHz 用の短縮水平 DP、CD78 を八

木のブームに平行にのせた。長さは 17m、一見、八木の上にヤジロベエが乗っている感じである。(写真8)

予想どおり 7MHzの 3 エレは望みどりの Power を与えてくれた。運用は常に Bear foot でありながら狙った Dx 局からは必ず Return があり、年末には早くも 100 の大台を超え、2004年正月には 80 / 75m の Watch を始めるに至った。

今や ANT は馬鹿でかい Tree になっている。かつての町工場街も今ではマンションや戸建て住宅の密集する住宅街に変わっていた。もはや常時 Tower を揚げっぱなししておく訳にはいなくなっていた。80 / 75m の Dx hunting は 10月から3月の間のみの Open であり、しかも JA からは早朝 04:00J~07:00 と、年末のほんの一時期のみ夕刻に Open の時間があるという厳しい条件である。2004年の正月からは早朝 4時過ぎに Tower を Full Up して Watch に入り、Condx の良い日には中東から EU、そして Band がしずまる直前の 07:00J 前後には、運が良ければ南米、北米の LP が狙えるという生活が始まった。07:00J を過ぎると店じまい、Tower を降ろすことも大切な日課となった。80 / 75m を得意とする Local 局からは、大阪の街中で 75m の Dxing ? どの位の Noise Level ? ANT はどの位の高さに揚げられるの ? Power は ? と、どれ一つ満足な答えにならないみじめな環境にいることを痛感させられた。さらに私の QTH 周辺には、丁度 75m Band の Dx 局の多い周波数帯に覆いかぶさるように突然に表れる BCband の混変調があり、折角の Dx 局に Call も出来ないことがしばしばだった。突然出だした 3 の珍局 ? に当初は常連各局も怪訝な面持ちであったが、旧知の

Local 局のさりげない計らいで、あいつは何が何でも Dxcc を狙っているやつとの認識が浸透し、いつしか、違和感なくこの Band で活動できるようになり、のちには多大の協力をいただくことも少なくなかった。あまりの Active さと、遠慮無い Call に、時には Dx からひやかしや、助っ人が飛び出すこともあった。参入当初どうなることかと思われた 80 / 75 の DXCC も、ちょうど 2 年が経過する 2006年1月には 100 Entity 超えの大台にのり 5 Band DXCC は完成した。(写真7)

この間、2004年12月、DXCC の残り 2 Es のうちの 1つ、VU4 Andaman & Nicobar Isl. の DX pedition がおこなわれた。VU は VU 本土の他に、Andaman & Niobar Isl. と Laccadives (Lakshadweep) Isl. の 2 つの Entities をもつ。インド国内の政治情勢もあり Pedi は非常に永らく実施されてこなかった。確か 1989年の Laccadive 以来と思われる。それ故に需要も多く激しい Pile になることは実施以前からささやかれていた。SSN の低迷期でもあったが、幸い JA からは比較的近距离で条件は悪くなかった。私も開始当日に Contact を果たすことができた。大きな番狂わせが起こったのは、Pedi が始まって間もなく、無名の Andaman & Nicobar Isl. の名を一日にして全世界の人々に知らしめた大地震とあの大津波が起こったことであった。Pedi は直ちに非常通信に切り替わり、インド政府の救援活動に大きく貢献した。このことが同国内でアマ無線の社会的地位の獲得に大きな力となり、その活動はますます盛んになってきている。

VU a/n との Contact を果たしたことで、私の DXCC hunting は KP5 を残すのみとなった。(図6、7)



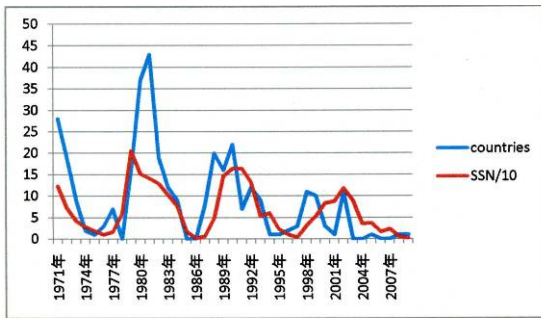


図 6

図 6 サイクル 20 21 22 23 における年別カントリー獲得数

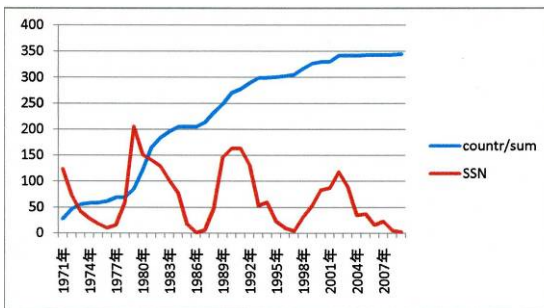


図 7

図 7 サイクル 20 21 22 23 におけるカントリー獲得総数の推移

KP5 Desecheo Isl とはカリブ海のプエルトリコの西 20km に位置する入島禁止の無人島である。絶海の孤島でもなくどちらかといえば誰でも、何時でもちよいと渡れそうな位置にあり、しかも米領である。何がそのように永らく HAM の、いや、人の上陸を拒絶し続けているのか。今どき、一番声の大きい環境保護団体である野生生物、魚類保護の組織が、この島の管理を米政府から仰せつかっているからだそう。私は 1989 年 3 月に行われた Pedi の際 Contact は果たしたつもりであった。しかし、QSL の発行者は NOT ON THE LOG とのこと、ついで QSL CARD の発行は受けられずじまいに終わっている。一度あることは二度あるである。用心、用心。

2005 年 11 月には関西では初めてとなる

World Wide の Dx Convention、アジアパシフィック DxConv. (APDXC) が私の QTH からすぐ近くの会場で開催された。大阪国際交流会館(よく学会などでも利用される)ラジオクラブ、ICOM の共催によるものである。海外からの参加者の中には超大物の ON4UN (Low Band DXing の大家で同名の著書がある。) K4UEE (非常に Active な Peditioner、最近では 3Y や KP5 の Pedi を仕切る) VU4RBI (VU a/n で久方ぶりの Pedi を実現させたが、地震と津波のほうで一躍有名になってしまった) 等等多数の面々が参加した。

K4UEE にはどうしても情報として聞いておきたいことがあった。講演の合間に彼の前に歩みよると、いかにも人懐っこく「Hi, Bob」と自分の顔を自分で指差した。すらっと背が高く、スリムな Gentleman であった。「KP5 の情報教えて一な。おれ、こいつだけが残ってんねん」「Great! やる、やる、もうじきやるよ」「もうじきって何時ですんねん?」「そらちょっとわからんわー」

それから数週間、KP5 に向かっているやつがいる、との情報が伝わってきた。そんなに早くご利益があったんやろうか。情報に従って Watch に入る。情報が少ないせいか、平日の早朝のためか、呼ぶものはわずかである。それにしても信号が弱すぎる。おまけに雨が降り出した。私のところでは雨が強くなると電柱から出る Noise が雨に比例して強くなる。どうも JA をエリア指定しているようだ。何とかなるかも。Watch を続けるうちに大雨に。Noise も雨だれに同期したようにバリ、バリ、バリ。翌朝も同じ時間帯に Watch をするが、何の信号も聴こえない。と「KP5 の連中は Coast Guard に捕まって離島したとか」との情報。これは Bob の言っていた

「もうじきな」の Pedi ではなかったらしい。

KP5 の情報収集には抜かりがないようにしながら、5 Band DXCC の次、2006 年 2 月からは 10.1MHz の DXCC 狙いにとりかかった。40m の時と同様、先ずは DP で始めた。この Band はおおむね Band condx が安定で、混信も少なく、Manner も上々、SSN の低迷期にもかかわらず、気持ちのよい QSO を楽しめた。暖かくなったらと考えていたビーム ANT との入れ替えは少し遅れて 7 月になった。Tower 上のマストのてっぺんにあるヤジロベエ CD78 にかわり、10MHz の AFA30 2 エレのフェイズドアレービーム ANT がのった。この Band もビーム ANT になれば何処の局であれ Bear foot で充分で、翌 2007 年 11 月までに 100E オーバーを達成した。(写真9)



写真9 714X-3の上には CreateAFA30 がのり、ヤジロベエは少し下へ

次は 18MHz、その先は 24MHz Band と進む予定ではあるが、その場合の ANT をどうするかは悩ましい問題であった。WARC Band 専用の Mono bander や Duo, Tri bander もあ

る。さらに多 Band のビーム ANT もある。

色々思案していたところ、今、にわかには話題になりつつある ANT のことを Local 局から耳にした。Stepp I R Ant である。簡単には八木 ANT のエレメント長を内蔵のコンピューターが瞬時に計算し、計算された結果にもとずいて内蔵の Stepp motor が直ちにエレメントを繰り出すという優れものである。各エレメントが全て同時に作動し、Band 幅内全ての周波数に対応する。上の Band edge、下の edge、いずれの Point でも Matching が完璧にとれているから素晴らしい。多くの Ham が少なからず同様の発想はもってきたが、なかなか現実のものにならなかった逸品とみてとびついた。私が採用したのは最も汎用されているタイプの 3 エレ八木である。全ての Band で Full size として働き、14MHz から上は 50MHz まで全てに対応する。ちなみに商品名の Stepp IR とは、エレメントを繰り出す Stepp motor から、IR はメーカーの社長の Call sign K7IR にちなんでつけられた名前と拝察する。使ってみての感想は、出る周波数全てで SWR 1:1 であるから Interference の心配もなく気持ちがよい。エレメント長の調整にも時間がかからず、大きな音も出ない。使い始めて 1 年そこそこではあるが、今のところ故障もなく、私の Needs に充分答えてくれている。

この ANT を 714X の上のにせてみた。714X は 7、14、21MHz の Tri bander であるため、両 ANT の Boom を同方向にすると、同一 Band では干渉が起こり、両者とも Mismatch の状態に陥ってしまった。この障害を防ぐため、Boom の方向を 90 度ずらして干渉を防いでいる。これら二つの ANT の間には重複する Band ができることになってしまったが、私の



Ham life の変遷上、一時的には仕方のないことと考えている。(写真10、11)



写真10 梱包を解いた Stepp IR ANT。梱包ケースの左側にエレメント長を調整するステップモーターとそのハウジングがみえる。モーターは各エレメントの基部にすわる

2007年12月、毎度のごとく DP で始めた 18MHz は、2008年7月の Stepp IR の導入により急速に結果を延ばし 11月には 100E の大台にのせた。引き続き 24MHz に進んでみたものの、SSN 0 の日が大部分の今日では、およそ DX 局らしき信号が聞かれず、SSN の上昇を待つしかない状態である。

そうこうしているうちにも、2006年7月には EU のモンテネグロが独立国家として誕生し、



写真11 714X-3 の上についた Stepp IR 3 エレ ANT。ブーム方向を90度ずらしている

2008年10月にはカリブ海に浮かぶ St. Martin から St. Bartherony Isl. が分離され新 Entity となった。いずれも Contact は果たしたが、カリブの St. Bartherony TO5DX との QSO には難儀した。とにかくこの SSN 低迷期でのカリブとの Contact は、相手局がよほどしっかりした電波を出してくれなければ、まともには聞こえてこないのだから。この SSN の状況では、近くおこなわれるという KP5 の Pedi は先が思いやられるというものだ。

しかし、その時は確実に近づきつつあった。

(後編に続く)

## BCL の思い出

### JF3MTM 柴田敏弥(大阪府)

MARS はアマチュア無線クラブなのですが、会員の皆さんはレベルが高くご活発なのでアマチュア無線の内容から外れラジオのことを書かせて頂きたいと思います。

もう三十数年前、私が小学校5年生の頃海

外短波放送を聴くこといわゆる BCL のがブームになっていました。昨年亡くなられた山田耕嗣さんの本に影響されはじめた方も多かったのではないかと思います。

当時今のように海外旅行が安く自由に行け

る時代ではありませんでした。毎週日曜日の朝に放映されていた兼高かおるさんの番組で海外へ想いをよせるようになったのが切っ掛けでBCLをはじめました。家にあったのは中波と短波の2バンド真空管ラジオ、これにビニール線のアンテナを付けて受信していました。いつも聞こえてくるのがモスクワ放送、北京放送、当時ソ連邦は巨大な社会主義国、モスクワ放送を聴いていると社会主義社会は素晴らしいと錯覚を起こしそうな内容の放送でした。ものは安く、地下鉄は25円で乗り放題と言っていたのを覚えていますが。またバイカル湖の話などなかなか面白かったです。

しかしそのうち各メーカーから素晴らしい短波ラジオが発売され、私も親にねだりソニーのICF5900と言うラジオを買ってもらいました。当時の親の給料は確か15万円ほど、5900は27,800円、かなり高価なラジオです、よく買ってもらえたと思います。今では唯がラジオに3万円近くも使う人は少ないのではないのでしょうか。今はホームセンターで3,000円ぐらいでデジタル表示のラジオ買えますからね。また当時苦勞して作ったトランジスターラジオは百均で売っています。

このラジオは10KHz間隔で周波数が合わせられる当時のアナログ技術の最先端のラジオです。今はデジタル表示で1KHzまで正確に合わせられますが当時としては画期的なものです。このラジオが手に入ってから様々な放送が簡単に受信できるようになりました。中でもよく聴いたのはバチカン放送、べつにクリスチャンではありませんが、鉄琴で奏でられるインターバルが好きだったからです。

ある日バチカン放送で“豊臣秀吉によるキリスト教迫害のことが放送されていました。これを

聴いて”日本に来たキリスト教徒により神社仏閣が襲撃され破壊されたために秀吉は仕方なく行った行為で迫害ではない“と手紙を送りました。すると1週後その手紙が放送で読み上げられ驚きと感激を覚えました。なかなか周りの意見も受け入れる唯のエゴで行っている放送ではないと実感いたしました。これを期にバチカン放送に受信報告書をたびたび送るようになり、おかげで全種のベリカードを頂くことができました。今でも大切に保存しています。

次によく聴いたのはピョンヤン放送、人気があった理由はリスナーへのサービスがすこぶる良かったからです。カレンダー、バッチ、ベナント等いっぱい送ってきてくれます。今でもまだ送ってきてくれます。しかしやっぱり怖い国の放送でした。ある日北朝鮮のお祭りアラン祭の招待状が届きました。行っていたら今頃ピョンヤンに住んでいたかもしれません。でも行って見たかったですね。また顔写真を送ってくれとかいってきました。送っていたらどうなっていたんでしょう。ピョンヤン放送から送られてくる手紙はすべて封を開けられ中身をチェックしてから家に届けられてきます。

今も時々聴いていますが私の住所、名前が気に入られているか、“大阪市中央区の柴田さんのリクエストで将軍様をたたえる歌”などラジオから聴こえてくるとぞくつとします。誰もそんなくだらない歌リクエストしていません。

いろいろと思いのあるBCLですが、今でも使っているラジオはICF5900です。調子は当時と変わらず順調です。トランシーバもゼネカバになり簡単に短波放送を聴けますが、空の散歩はアナログラジオでダイヤルを回しながらするのが一番です。

# 突然の無線機

## JH6WSN 塩月 邦美(大分県)

JARL 大分県支部の仕事を任されていました時はアマチュア無線の災害時における非常通信に関する取り組みや訓練等、渉外的な仕事や行事等を行いまして平素からアマチュア無線局と地域間との意識の連携や向上を目指してきました。そして、ワールドカップ世界選手権が日本と韓国で実施されました際には多方面のご協力を頂きまして西日本では唯一でございましたが特別記念局(8J6C)を大分の大学内(日本文理大学)に設置いたしました。県内の移動運用も計画的に実施致しながら QSL カードを発行しまして電波でもサッカーの応援が出来ましたのは思い出の一つでございます。

QSL カード書きは最近パソコンが活動をはじめまして実には楽にはなりました。やはり、QSL カードの総合的な仕上げ、整理の一つは何と申しましてアワード申請でしょうか。ずっと以前からアワード・ハンドブック等で紹介されてきました MARS 医学アワードは極めて興味が深まるアワードでございました。HP を見まして MARS 医学アワードⅡが有る事を知りました。私は先ずこれを申請致しましたら期待を裏切らない素晴らしいアワードが届きました。次に念願のアワードを申請致しました。クラス B ではありましたが自分なりに満足をしておりました。半年以上は経過致しまして突然の無線機到着です。良くあるお話でございますが、留守中に X が受け取りました。あれこれ事情が判るまではお恥ずかしい事ではございますが私には全く心当たりがありませんでした。まさか抽選で無線機が当たるなんて夢にも思えない様な出来

事でもございました。それ故言葉には表現出来ない様な心境でもございました。お送り頂きました無線機は誠に有り難く、末永く大切に活用させていただきますと共に御礼を申し上げます。

近頃は多様化の中にありまして、アマチュア無線用デジタル通信システム(D-STAR)や画像通信(PSK31)、インターネット(VPN)とアマチュア無線を融合した(VoIP 通信)等の情報を耳にするようになりました。私はサイクル24をおおいに期待しながらアマチュア無線を楽しんでおります。聞こえておりましたら是非お声がけをお願い致します。

そして貴連盟の益々のご盛況と会員皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げ重ねて御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

# JH6WSN

JCC 4401

THAQ # 39

PM53TF






ZONE 25  
JCC#4401  
G.L.PM53TF

OITA JAPAN

# JH6WSN



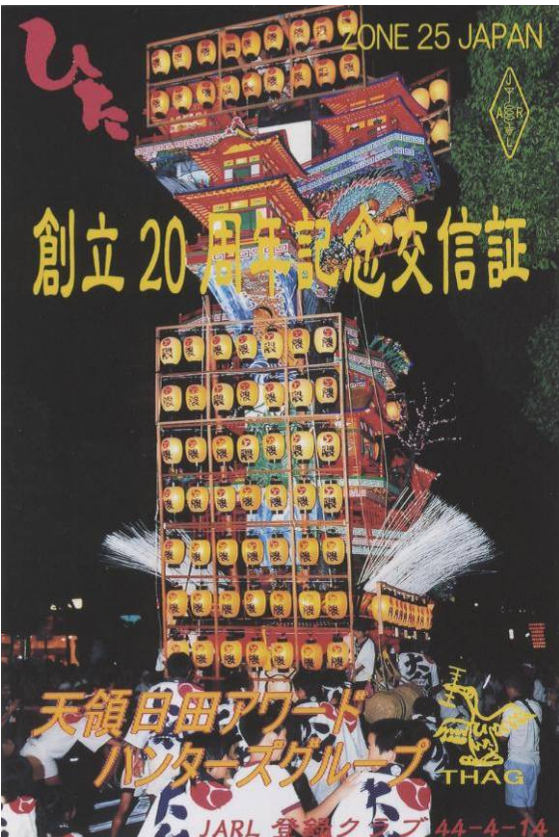
OP. 塩月邦美

QTH. 〒870-0917 大分市高松1-2-12

THAG

ZONE 25 JAPAN

# 創立20周年記念交信証



天領日田アワード  
ハンターズグループ

THAG

JARL 登録クラブ 44-4-14

THAG

## THAG ふるさとアワード 日田祇園祭賞

発行者: 天領日田アワードハンターズグループ (THAG)

ルール: 取得 QSL カードのサフィックスで任意の1文字を使って「THAG FURUSATO AWARD HITA GION MATURI」と綴る。

- \* 交信期間: 平成元年(1989年)1月8日以降とする。
- \* 「HITA」の4文字は日田市(旧日田郡を含む)の局1局とする。(移動局 OK)
- \* メンバー局1局を1文字に代用できる。重複は不可。
- \* 10・15・今回発行の20周年記念交信証は、①「THAG」②「FURUSATO」③「HITA」④「GION」の各綴りに代用できる。

特記: バンド・モード 申請者の移動範囲制限無し

申請: 誓約申請書+400円(小為替)

申請先: 〒877-0006 大分県日田市港町9-29 JP6SPZ 大岡 平和

問い合わせ先・詳細: jp6spz@jarl.com <http://www.jarl.com/thag/>

## 庶務とMARS ニュース

入・退会、コールサイン、住所の変更などの事務手続きはMARS事務局へ。

(事務局)

〒175-0092 東京都板橋区赤塚4-17-11

井上医院内

日本医師アマチュア無線連盟

電話 03-5968-5777

F A X 03-5968-5778

E-mail fumimasa@cb3.so-net.ne.jp

MARS ニュースへの御寄稿は、

〒640-8331

和歌山市美園町5-1-8山榮ビル3階

眼科田中クリニック内 MARSニュース編集部

電話 073-427-3010

F A X 073-427-2135

E-mail marsnews@tanakaclinic.jp

まで、お送りください。

パソコン(またはワープロ)の場合、再入力の手間を省くため、フロッピーディスクもしくはCD-Rの郵送、またはE-mailでお送りください。特殊記号などが文字化けすることがあり、プリントアウトした原稿もファックスまたは郵送してください。

手書き原稿もOKですが、なるべく上記の方法でお願いします。

写真は紙焼きの郵送でもE-mailでも結構ですが、高画質画像をMOまたはCD-Rに保存してお送り下されると、さらにFBな仕上がりになります。なお、紙面の都合により、原稿を短縮させていただいたり、写真の選択やトリミングをさせていただきますので、ご了承ください。

## 編集後記

お彼岸が近づき暑さも和らいでまいりました。初体験のシルバーウィークも目前で、日曜日と敬老の日と国民の休日と秋分の日が続けてやってきます。その次の祝日は体育の日ですので、ポチポチ秋の運動会シーズン到来で、今まで日曜日は勤務していて幼稚園の運動会には一度も行けなかったのですが、日曜日がお休みになったので今年は小学校の運動会に絶対に行くぞと意気込む今日この頃です。

来年のMARS総会はウチナー総会ということで、4年前に沖縄であった楽しかった総会のことを思いめぐらせております。当局は前回の沖縄総会のあと昨年と今年の2回日帰り息子と二人で沖縄本島に行ってきました。昨年は前回エクスカッションで行った首里城、今年は玉泉洞をメインで訪れました。次回は美ら海水族館を狙っていますが、少し那覇空港から距離があるので、日帰りではきついかたと再考中です。

では来春 JR6 で皆様にお会い出来ることを楽しみにしております。73

DE JF3JON

## 日本医師アマチュア無線連盟会報

(第69号)

発行: 日本医師アマチュア無線連盟

発行日: 平成21年9月15日

編集: 田中憲児(JF3JON)

印刷: 西岡総合印刷株式会社

Tel073-425-1341 Fax073-436-0855

URL <http://www.nishioka.co.jp/>

E-mail [info@nishioka.co.jp](mailto:info@nishioka.co.jp)